

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2年1～7組	教科	国語	科目	現代文B
				単位数	3
「学び」の 目標とねらい	現代社会で起こっていることすべてがつながっていることを学び、社会を広く見渡す視点を養う。				
教材	『精選 現代文B』（三省堂）				
副教材等	『漢字プラス語彙2040』（尚文出版）（昨年度からの継続教材） 「小論文トレーニング」（第一学習社）、『Z 会 現代文キーワード』（Z 会出版）				

1. 学習内容

「現代文」とは現代(＝ポストモダン)の思想を捉える学問です。ポストモダンを知るにはモダン(＝近代)を知らねばなりません。

具体的には、明治から大正、昭和にかけての思想の潮流と戦後のそれとを比較し、自分のものとして受け止め、考えをまとめることが必要です。授業教材には教科書以外でも現在の思想を扱っている論文を読み、自分の考えをまとめていきます。また、レベルに応じた多くの入試問題を解き、難関私大とセンター、国公立の記述どれにも対応できるような力を養います。

新聞を読み、ニュースを見て、新書を読んでください。自分から時代の流れに耳を傾けていけば、現代文は得意科目になります。

※文・理コース、スタンダード・ハイレベルクラスに応じて適切な入試問題に取り組みます。

2. アドバイス

- ・予習として、本文を一読し、難しい語句を調べておいてください。
- ・基礎分野の定着のために小テストを実施します。しっかりと準備しましょう。
- ・授業では、要約や意見など多くの文章を書いてもらいます。自分の理解したことを形にする訓練なので、積極的に取り組んでください。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・朝テスト ・小テスト ・課題 ・ノート提出 ・授業を受ける姿勢 ・読書ノート
- ・その他(小論文提出は必須。文学史は定期テストに出題。朝テスト、読書ノートも成績に換算)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	評論	14	「わかりやすいはわかりにくい？」鷲田清一	論理的な文章を読んで、筆者の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。	論旨を正確に追いながら、筆者の言う「思考」の「肺活量」が持つ意味について読み取る。	☐
	小説		近代の小説	文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合う。	登場人物の視点に沿いつつ、〈語り手〉が構成する場面の意味を考える。	☐
	文学史		明治の文学	明治時代	作者、作品名、主義の知識を定着できる。	☐
	問題演習		模試の過去問・解説 入試問題	模試関連の問題を解き、解き方についての理解度を深める。	思考の跡をラインで残し、設問の要求に的確に解答できる。	☐
1学期期末考査	評論	94	「コンクリートの時代」隈研吾	評論文を読解していく方法を身につける。	現代の普遍的(グローバル)な技術としてのコンクリートがもたらした功罪について理解する。	☐
	詩歌	66	「永訣の朝」宮沢賢治	詩の情景を読み解き、また表現上の特徴や工夫についてまとめる。	繰り返し音読することにより、それぞれの作品世界の理解を深め、詩人たちの個性に触れる。	☐
	小論文		小論文	自分の進路に応じた問題に対して文章が書ける。	論文の構成を考えられる。 社会問題の知識。	☐ ☐
	文学史		明治・大正の文学	鷗外と漱石	作者、作品名、主義など。	☐
	問題演習		模試の過去問・解説 入試問題	模試関連の問題を解き、解き方についての理解度を深める。	思考の跡をラインで残し、設問の要求に的確に解答できる。	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	小説	150	「こころ」夏目漱石	①場面ごとの描写から心情を読み取る。 ②「精神的に向上心のないものはばかだ」ということばの「私」の意図を読み取る。 ③Kの自殺の背景と理由を考える。	「K」の行動の「私」の心の推移を読み取ることができる。 「K」の「覚悟」ということばを「私」はどのように解釈し、どのような行動に出たかを読み取ることができる。 「K」の「覚悟」／「K」の自殺に直面した「私」の心の動きを読み取ることができる。	☐ ☐ ☐
	文学史		大正の文学	大正期の文学	夏目漱石の代表的な作品 作者、作品名、主義など。	☐ ☐
	問題演習		模試の過去問・解説 入試問題	模試関連の問題を解き、解き方についての理解度を深める。	思考の跡をラインで残し、設問の要求に的確に解答できる。	☐
2学期期末考査	評論	222	「身体くの」疎外」 黒崎政男	論理的な文章を読んで、筆者の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。	テクノロジーの発達によって、身体が私たちの心や意識を支配しかつ疎外しているという論理を読み取る。	☐
	小論文		小論文 「進路に応じた問題」	自分の進路に応じた問題に対して文章が書ける。	論文の構成を考えられる。 社会問題の知識。	☐ ☐
	文学史		大正・昭和の文学	大正・昭和期の文学	作者、作品名、派、主義を覚える。	☐
	問題演習		模試の過去問・解説 入試問題	模試関連の問題を解き、解き方についての理解度を深める。	思考の跡をラインで残し、設問の要求に的確に解答できる。	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	評論	269	「南の貧困／北の貧困」 見田宗介 ※関連する文章を読む	論理的な文章を読んで、 筆者の考えやその展開 の仕方などについて意見 を書くこと。	筆者の論理展開を踏まえ、「豊 かさ」について考察し、自分の 考えを整理する。 南北問題の構造がつかめる。	☐
	文学史		韻文	近代の韻文の文学史	作者、作品名、派、主義を覚える	☐
	問題演習		私大・国公立過去問	模試関連の問題を解き 解き方についての理解 度を深める。	思考の跡をラインで残し、設問 の要求に的確に解答できる。	☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2年 1～7 組	教科	国語	科目	古典B
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	古典作品を読解し鑑賞するための基礎を固める。				
教材	『高等学校古典B』（第一学習社）				
副教材等	①『全訳読解古語辞典』（三省堂）、②『読解のための必修古典文法』（文英堂）、③『漢文必携』（桐原書店）、④『漢文必携チェックノート』（桐原書店）。以上1年次より継続使用。⑤『古典文法準拠ノート』（文英堂）、⑥『マドンナ古文単語』（学研）				

1. 学習内容

- ・ 古文における「文法」「単語」「古典常識」、漢文における「句法」「用字」といった“道具”の扱いに習熟し、古典読解の基礎力を養成する。
- ・ 古文単語テストを実施する。
- ・ 副教材の内容を、定期考査にて出題する。
- ・ ハイレベルクラスでは模試、大学入試の過去問等を使用した問題演習を適宜行う。
- ・ 日々の積み重ねこそが古典読解の高みへ登るための礎となる。地道な学習を大切にし、自らの手で有意義なものとせよ。

2. アドバイス

- ・ 予習は必須。字間、行間を広くとって本文を写し、意味調べ、品詞分解（特に助動詞と敬語）、現代語訳をした上で、授業に臨む。自分で工夫を加えた復習しやすいノートを作る。
- ・ 古文単語テストに、しっかりと準備した上で臨む。
- ・ 副教材に、自ら積極的に取り組むこと。定期考査に出題する。
- ・ 模試の受験後は復習を行い、自分の力を補強する。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査、平常点（小テスト、ノート等の課題や授業の取り組み）

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間	古典基礎固め	古文	軍記物語	「平家物語」等	文法基礎 動詞	☐
		漢文	故事、史話	「唐詩紀事」「史記」等	句形(比較)	☐
1学期期末	古典基礎固め	古文	軍記、歴史物語	「平家物語」「大鏡」等	形容詞・形容動詞 助動詞	☐
		漢文	史話	「史記」等	句形(二重否定)	☐
夏休み			ワークブック、古文単語テストなど。			
2学期中間	古典基礎固め	古文	歴史物語	「大鏡」等	助動詞	☐
		漢文	史話	「史記」等	句形(仮定・詠嘆)	☐
2学期期末	古典基礎固め	古文	日記、物語	「更級日記」「源氏物語」等	助詞	☐
		漢文	思想、漢詩	「論語」「韓非子」「詩」等	句形(限定・累加・選択・願望)	☐
冬休み			ワークブック、古文単語テストなど。			
3学期学年末	実践力養成	古文	物語	「源氏物語」等	敬語 和歌 識別	☐
		漢文	伝奇	「幽明録」等	句形まとめ	☐
春休み			ワークブック、古文単語テストなど。			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～4 組	教科	国語	科目	国語演習
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	古典学習の基礎・基本を定着させるとともに、問題演習を通じて実践的読解力を高める。				
教材	『古典文法トレーニング』『漢文句形ドリルと演習』（河合出版）				
副教材等	『全訳読解古語辞典』（三省堂）、『読解のための必修古典文法』（文英堂）、『漢文必携』（桐原書店）。以上昨年から継続使用				

1. 学習内容

- ・ テキストを読み進めながら、古典学習の基礎である古典文法や漢文句法を確認し定着させるとともに、問題演習を通じて古語語彙や漢文用字を習得し、古典に対する読解力を強固なものにする。

2. アドバイス

- ・ 自ら積極的に問題を解くことに加え、文章内容全体の理解に努めること。
- ・ 読解問題はもちろん、教材に付されている単語や文法の整理部分なども、積極的に活用すること。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査、平常点(課題や授業に臨む姿勢等)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	用言・訓読		古文 漢文	演習問題 演習問題	古典文法基礎 用言 訓読の基礎 再読文字	☐ ☐ ☐ ☐
1学期期末考査	助動詞・句法		古文 漢文	演習問題 演習問題	助動詞(過去・完了・打消等) 使役形 受身形	☐ ☐ ☐
夏						
2学期中間考査	助動詞・句法		古文 漢文	演習問題 演習問題	助動詞(推量・推定等) 否定形 疑問・反語形	☐ ☐ ☐
2学期期末考査	助詞・句法		古文 漢文	演習問題 演習問題	助詞 比較形 抑揚形	☐ ☐ ☐
冬						

3 学期 学年末 考查	敬語・句法		古文	演習問題	敬語 識別	☐
			漢文	演習問題	限定・累加・仮定形 漢詩	☐ ☐
春						

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1 ～ 7 組	教科	地理歴史	科目	世界史 B
				単位数	2
「学び」の 目的とねらい	個々の表層的な歴史的事実のみではなく、その奥にある歴史の潮流（背後にあるもの）を把握・理解できるようになる。				
教材	『詳説世界史B』 山川出版社				
副教材等	【必携】『最新世界史図説タペストリー（十七訂版）』帝国書院 【あると便利なもの】 『世界史B用語集』 山川出版社 ※ プリント授業ですので、プリントを保管するファイルを用意しておきましょう。				

1. 学習内容

2年次の世界史Bでは近世・近代のヨーロッパ史を学習します。帝国主義時代以降の近現代地中海・欧米史、そして東洋史・アフリカ史については、3年次の世界史演習(文系クラスの選択科目)において扱います。

プリント授業です。教科書レベルを超える内容で、授業にしっかりと取り組み復習もすれば、難関国公立大学の長文論述問題を除く入試問題には十分に対応できます。スタンダードクラスとハイレベルクラスとで進む速さ自体は変わりません。

授業時には毎回「5問テスト」という小テストを行い、知識の整頓を行います。小テストの成績が基準に達しない場合には何らかの措置をとります。

2. アドバイス

定期考査の2週間前になって対策学習を始める人がいますが、日々の予習・復習こそが最大の定期考査対策です。特に復習は、時間で区切るのではなく、その回の授業内容を他の人に説明できるようになるまで(つまり授業内容を「理解」できるまで)やってください。

- ①プリントの空欄の穴埋めにとどまらず、周辺知識を記入しましょう。なお、周辺知識は一度頭の中で整頓した上、自分の言葉で書くようにしましょう。
- ②始業ベル前に授業に必要なもの一式を机上に用意しておきましょう。
- ③そもそも学習意欲に欠ける者は学校から去りましょう。義務教育ではありません。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点(授業態度・小テスト)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	近世の幕開け／近代国家の展開	201-213	ルネサンス・大航海時代・宗教改革	37・ルネサンス	ルネサンスの定義と深化 イタリアルネサンスと西欧ルネサンス 科学技術の発展	☐ ☐ ☐
				38・ルネサンスの文化人①	主な文化人の業績	☐
				39・ルネサンスの文化人②	主な文化人の業績	☐
				40・ポルトガル・スペインの成立と大航海時代の幕開け	ポルトガル・スペインの成立 大航海時代の大枠	☐ ☐
				41・大航海時代の航海者とヨーロッパの激変	主な航海者の業績 商業革命・価格革命・食卓革命	☐ ☐
				42・アメリカ文明とスペインによる統治	メソアメリカ文明とアンデス文明の種類と特色 エンコミエンダ制・アシエンダ制	☐ ☐
1学期期末考査	近世の幕開け／近代国家の展開	201-213	ルネサンス・大航海時代・宗教改革	43・ルターの宗教改革	カトリックとプロテスタントの相違 ルターの宗教改革	☐ ☐
				44・宗教改革の広がりと対抗宗教改革	カルヴァン派とイギリス国教会 イエズス会とトリエント公会議	☐ ☐
		213-236	近世ヨーロッパ諸国	45・スペインの全盛期と衰退	主権国家体制とは スペインの全盛期	☐ ☐
				46・オランダの独立とフランスの宗教戦争	オランダ独立戦争 オランダの海外貿易 ユグノー戦争	☐ ☐ ☐
				47・フランスの絶対王政	アンリ 4 世→ルイ 13 世→ルイ 14 世 ルイ 14 世が行った 4 つの対外戦争	☐ ☐
				48・ドイツ三十年戦争とプロイセン	三十年戦争の要因・過程・結果 マリア=テレジア期のオーストリア プロイセンの強国化	☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
2学期中間考査	近世国家の展開	213-236	近世ヨーロッパ諸国	49・ロシアの強国化	ロシア帝国の成立 ピョートル 1 世とエカチェリーナ 2 世の統治	☐
				50・イギリスの絶対王政	テューダー朝とステュアート朝の比較	☐
				51・イギリスの市民革命	ピューリタン革命の推移 名誉革命の過程 議会政治の確立	☐ ☐ ☐
		236-240	17～18 世紀ヨーロッパの文化と社会	52・17～18 世紀のヨーロッパ文化(哲学・社会科学) 53・17～18 世紀のヨーロッパ文化(文芸・自然科学)	経験論・合理論・観念論 自然法思想・社会契約説 啓蒙思想・重農主義 おもな科学者の業績	☐ ☐ ☐ ☐
2学期期末考査	産業革命と市民革命	241-244	産業革命	54・イギリス議会政治の発達と産業革命 55・産業革命の進展と社会主義思想	資本主義社会の本質とは 技術革新 社会主義発展の流れ	☐ ☐ ☐
		245-248	アメリカ独立革命	56・アメリカ独立革命	独立革命と各国の思惑	☐
		248-252	フランス革命	57・フランス革命の始まり 58・フランス革命の進展と終了	市民革命とは何か 革命各派の違い 革命に対する各国の思惑 革命中の主導勢力の変遷	☐ ☐ ☐ ☐
3学期学年末考査	近代国家の展開	252-255	ナポレオン＝ボナパルト	59・ナポレオン＝ボナパルト	ナポレオンの業績	☐
		256-277	近代国家の展開	60・ウィーン体制 61・ウィーン体制の崩壊 62・19 世紀のイギリス 63・イタリアとドイツの統一 64・19 世紀のロシアとアメリカ 65・南北戦争とその後のアメリカ	ウィーン体制の特色 崩壊の根本要因 議会政治の発達 国民国家の概念 新たな国家の台頭 南北戦争前後のアメリカの変化	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～7 組	教科	地理歴史	科目	日本史 B(選択)
				単位数	4
「学び」の 目的とねらい	歴史的事象を時代背景、政治状況、対外関係等を踏まえながら考えていき、 思考を深めていく。				
教材	詳説日本史 B(山川出版社)				
副教材等	【必携】新詳日本史(浜島書店) 詳録新日本史史料集成(第一学習社) 詳説日本史10分間テスト(山川出版社)				
	【あると便利なもの】日本史 B 用語集(山川出版社)				

1. 学習内容

更新世末期(一般には氷河時代)における日本人の足跡から始まり、現在に至るまでの日本史を2カ年で学習します。2年次は、更新世末期から、江戸時代初期までを学習します。3年次に、江戸時代半ばから戦後史までの歴史をあつかいます。史料を読み、為政者の活動(政治史、外交史)、民衆の動き(文化史、社会・経済史)を学んでいきましょう。

歴史学習は単なる暗記科目ではありません。なぜ、そのようなことが起きたのか、時代背景、政治状況、対外関係等を踏まえながら考えていき、思考を深めていく科目です。自分の頭で“考えていく”ことをしなければ、なかなか理解することはできません。授業では、“考えること”が必要です。50分間の授業、しっかりと考えていきましょう。

2. アドバイス

授業後に復習をしましょう。ノート・教科書の音読と、難しい漢字の書き取りをしていきましょう。

出てきた用語は、用語集を使い確認していきましょう。

『10分間テスト』を何度も繰り返し学習していきましょう。授業の内容を自分でも繰り返すことができるようになると完璧です。

さまざまな情報(時代背景・政策・民衆の行動・異文化の影響)を頭に入れて“思考”していくことが、学習効果をあげるのに必要なことです。ハイレベルクラスは適宜入試問題演習をおこないます。

【予習】授業前に前回の授業内容を確認する。(5分)

【授業】自分の頭で“思考”しながら、授業を受ける。授業後に心地よい頭の疲労があれば合格。

【復習】必ず、その日のうちに復習をすること。ノート・教科書の音読→用語集の確認→10分間

テストで知識定着→問題演習(B ステプリント)で完璧！

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査・小テスト・ノート(10分間テスト学習ノートを定期的に提出してもらいます)・平常点

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	日本文化のあけぼの	8-33	1. 文化の始まり	日本列島と日本人	日本列島と大陸は陸続きであつたと考えられる理由	☐
				旧石器時代人の生活	旧石器時代人の使用道具・生活様式・遺跡	☐
				縄文文化の成立 縄文人の生活と信仰	旧石器時代との違い 縄文時代の特徴	☐ ☐
			2. 農耕社会の成立	弥生文化の成立 弥生人の生活	縄文文化と弥生文化の比較 農耕による社会の変化	☐ ☐
				小国の分立	中国の史書による日本の様子	☐
				古墳の出現とヤマト政権 前期・中期の古墳	ヤマト政権とは何か 古墳の時期・分布・副葬品などの比較から特色を読み取る。	☐ ☐
			3. 古墳とヤマト政権	東アジア諸国との交渉	国内情勢、朝鮮半島情勢から中国への交渉を理解する。	☐
				大陸文化の受容	漢字・儒教・仏教の伝来	☐
				古墳時代の人々と生活 ヤマト政権と政治制度	土師器や農耕に関する祭祀 氏姓制度	☐ ☐

1 学期 期末 考查		34-67	1. 飛鳥の朝廷	東アジアの動向とヤマト 政権の発展 飛鳥の朝廷と文化	推古天皇の政治	☐
			2. 律令国家への道	大化改新 律令国家への道	飛鳥文化の特色・内容 乙巳の変、改新の詔 白村江の戦い、天智天皇、 壬申の乱、天武天皇、持統天皇	☐ ☐ ☐
			3. 平城京の時代	白鳳文化 大宝律令と官僚制 遣唐使 奈良の都平城京 藤原氏の進出と政界の 動揺	白鳳文化の特色・内容 律令制の内容、民衆の負担 目的・航路・渡海した人物 条坊制、東西市、和同開珎 奈良朝政争史	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			4. 天平文化	国家仏教の展開 天平美術・国史編纂	鎮護国家思想と土地政策 南都六宗 天平美術の特色、国史の内容	☐ ☐ ☐
			5. 平安王朝の形成	平安遷都と蝦夷との戦い 平安時代初期の政治改革 唐風文化と平安仏教	平安遷都の経緯、蝦夷との関係 令外官設置の経緯、内容 弘仁貞観文化の特色、内容	☐ ☐ ☐
2 学期 中間 考查	貴族政治と国風文化	68-84	1. 摂関政治	藤原氏北家の発展 摂関政治 国際関係の変化	他氏排斥、外戚関係強化 藤原道長・頼通 遣唐使の中止	☐ ☐ ☐
			2. 国風文化	国文学の発達 浄土の信仰	仮名文字、古今和歌集、日記 末法思想、平等院鳳凰堂	☐ ☐
			3. 地方政治の展開と武士	受領と負名 荘園の発達 地方の反乱と武士の成長 源氏の進出	成功・重任・遙任・受領 寄進地系荘園 武士団、承平・天慶の乱 平忠常の乱、前九年の役、 後三年の役	☐ ☐ ☐ ☐
		86-102	1. 院政と平氏の台頭	延久の荘園整理令と 荘園公領制 院政・院政期の社会 保元・平治の乱 平氏政権 院政期の文化	摂関政治の終焉、後三条天皇 の政治 白河上皇、僧兵、奥州藤原氏 平清盛の台頭 平氏の政権掌握 阿弥陀堂建築の広がり	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			2. 鎌倉幕府の成立	源平の争乱 鎌倉幕府 幕府と朝廷	以仁王の令旨～壇ノ浦の戦い 幕府の機構 封建制度	☐ ☐ ☐
			3. 武士の社会	北条氏の台頭 承久の乱	執権政治 乱の過程と結果	☐ ☐
	中世社会の					

2学期期末考査		102-119	4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化	執権政治 武士の土地支配 蒙古襲来 蒙古襲来後の政治 社会の変動 鎌倉文化、鎌倉仏教	北条泰時、御成敗式目 地頭請所、下地中分 モンゴル帝国、元寇 得宗専制政治、永仁の徳政令 農業の発達、貨幣経済の浸透 公家文化と武家文化の二元性 鎌倉仏教の特色、開祖、内容	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		120-147	1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化	鎌倉幕府の滅亡 建武の新政 南北朝の動乱 守護大名と国人一揆 室町幕府 東アジアとの交易 惣村の形成 幕府の動揺と土一揆 応仁の乱と国一揆 農業・商工業の発達 室町文化	持明院統と足利義満 後醍醐天皇の政治 南北朝の争乱と観応の擾乱 守護大名の権限、守護請 室町幕府の職制、足利義満 明・朝鮮・琉球・蝦夷ヶ島との関係 惣村による自治 足利義教、正長の徳政一揆 下剋上、山城国一揆 農業生産力の拡大、産業の発展 南北朝文化、北山文化、東山文化、 庶民文芸の流行	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	幕藩体制の確立	147-152	4. 戦国大名の登場	戦国大名 戦国大名の分国支配 都市の発展と町衆	守護大名と戦国大名の違い 分国法 自由都市の誕生(堺・博多)	☐ ☐ ☐
		156-185	1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立	南蛮貿易とキリスト教 織田信長の統一事業 豊臣秀吉の全国統一 桃山文化 江戸幕府の成立 幕藩体制 幕府と藩の機構 天皇と朝廷 江戸時代初期の外交 鎖国政策 寛永期の文化	鉄砲伝来、キリスト教伝来 織田信長の統一過程 豊臣秀吉の統一過程 検地と刀狩 朝鮮侵略 桃山美術、町衆の生活、南蛮文化 関ヶ原の戦い 武家諸法度 幕府の職制 禁中並公家諸法度、後水尾天皇 朱印船貿易 禁教と貿易統制、長崎貿易、朝鮮・琉球・蝦夷地との関係 朱子学、江戸期の民衆文化の基礎	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～7 組	教科	地理歴史	科目	地理 B(選択)
				単位数	4
「学び」の 目的とねらい	現代世界の諸地域について、成因や背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。				
教材	『新詳地理B』 帝国書院				
副教材等	【必携】『新詳高等地図』 帝国書院 【必携】『新編 地理資料 2021』 とうほう 【あると便利なもの】 『地理 B 用語集』山川出版社 『データ・ブック・オブ・ザ・ワールド 2021 年度版』二宮書店				

1. 学習内容

地理は系統地理と地誌(特定の地域を全体的に把握すること)とに分類されます。さらに系統地理は自然分野と人文分野に分類することができます。内容が多岐にわたっていますが、地表で起きている現象に着目する点では共通しています。

まず、高校 2 年次では、自然分野(地形・気候・農牧業・水産業等)について学習します。さらに 3 年次では、1 学期中間考査までに人文分野(人口・都市・民族問題等)を学習し、中間考査以降は 2 年間の総復習も兼ね地誌を学習します。

授業は基本的には板書形式(チョークは白・黄・赤の 3 色を使用)で行ないますが、テーマ学習の際にはプリントを使用することもあります。

ハイレベルクラスでは単元ごとに入試問題演習を行う予定です。

2. アドバイス

※地理ができるようになるポイント

①社会科(地理)は単なる暗記教科だと考えている者がいます。そのような考えは間違っています。地名や用語、現象を暗記することも大事ですが、それらには必ず論理的な裏づけがあることを忘れないでください。ですから、授業の際には「なぜ？」という発想を常に持ち取り組んでください。

②授業では多くの地名が出てきます。また新聞やテレビでも世界の様々な地域の情報が伝えられます。それらについて位置がわからなかったら必ず地図帳で位置を確認する習慣をつけましょう。地名だけわかっていても位置がわからなければ話になりません。なお、その都度白地図を配布しますので有効に使用してください。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査
授業態度

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	自然環境	20-21 25-45	世界の大地形	・地形を形成する要因 ・地球の構造 ・プレートの運動 ・水陸分布 ・大地形の分類 ・火山について	○地球はどのように成り立ち、現在地表にみられる地形はどのように成り立ったのかを理解することができる。	☐
			外的営力によってつくられる小地形	・河川がつくる地形 ・海岸の地形 ・氷河がつくる地形 ・珊瑚がつくる地形 ・カルスト地形	○内的営力によってつくられた陸地が地球のどこに分布しているか理解する。又、陸地の3つの地域(安定陸塊・古期造山帯・新期造山帯)の特色と分布を理解する。	☐
			地形図の読図	・地図記号 ・地形図の種類 ・読図演習	○次の用語の意味と成因、分布を理解することができる。 ・V字谷・谷底平野・河岸段丘・扇状地・氾濫原・自然堤防・後背湿地・蛇行・天井川・三角州・裾礁・堡礁・環礁・ドリーネ・ウバーレ・ポリエ・鍾乳洞・リアス海岸・フィヨルド・エスチュアリー・海岸平野・海岸段丘・砂嘴・砂州・トンボロ・ラグーン・カール・ホーン・モレーン・氷河湖	☐

[illegible]

3学期学年末 考査	資源と産業	114－144	エネルギー資源の分布	・エネルギーの種類 →石炭 →石油 →天然ガス →新しいエネルギー →エネルギー源の変遷 →発電の種類	○各エネルギー資源のおもな産出地を理解する。 ○石油開発の流れを理解する。 ○さまざまなクリーンエネルギーを知り、その重要性を理解する。	☐ ☐
			鉱産資源の分布	・鉄鉱石 ・非鉄金属 →銅 →ボーキサイト →レアメタル	○様々な発電方法の特色を知るとともに、その問題点についても理解する。又、各国の電力構成についても理解する。 ○各鉱産資源のおもな産出地を理解する。	☐ ☐
			工業の立地と変化	・工業の立地条件	○レアメタルの特色について理解する。	☐
			世界のおもな工業地域	・ヨーロッパの工業 ・アメリカの工業 ・アジアの工業 ・その他の地域の工業	○製品や材料によって立地が変化することを理解する。 ○各地域においてさかんな工業の種類や代表的な工業都市について理解する。	☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2年 1～4 組 文コース	教科	数学Ⅱ	科目	数学Ⅱ
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用させる。				
教材	数学Ⅱ Advanced（東京書籍）				
副教材等	【共通】Hi-Prime 数学Ⅱ 数学Ⅱ+B（東京書籍） はぎとり式 練習ドリル 数学Ⅱ（数研出版）				

1. 学習内容

「1章 方程式・式と証明」では、整式の除法と分数式の計算の仕方、複素数まで数を拡張することによって、2次方程式が必ず解を持つことを学びます。また、因数定理を用いた簡単な高次方程式も扱います。その後、等式・不等式の証明の仕方を学びます。

「2章 図形と方程式」では、直線や円を方程式で表す方法を学びます。さらに、与えられた条件を満たす点の軌跡や領域を表す方法を学びます。

「4章 指数関数・対数関数」では、累乗の指数を実数にまで拡張し、指数関数の性質を考察します。指数関数のグラフから対数の意味を理解し、対数の性質、対数関数の性質を考察します。

「5章 微分と積分」では、まず微分係数を定義し、そこから導関数を定義します。導関数の応用として、接線や関数の増減について考察します。微分の逆の演算として積分を導入し、その性質や計算方法を学びます。

2. アドバイス

数学Ⅱでは、数学Ⅰで学んだ内容をもとに発展させている内容が多く見られます。したがって、前学年までに学んだ内容を理解していることが求められるので、しっかり復習しておきましょう。

数学Ⅱを学習することは、計算力はもちろん、論理的思考力を磨くことになります。数学を通して、自分の頭で考える習慣を身につけましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点（小テスト・ノート提出・授業への参加態度）

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 方程式・式と証明 2章 図形と方程式	36-43	1章 3節 高次方程式	1.因数定理 2.簡単な高次方程式	因数定理を理解する。 複2次式や因数定理による高次方程式を知る。	☐ ☐
		44-59	4節 式と証明	1.恒等式 2.不等式の証明	恒等式について理解する。 不等式の証明におけるさまざまな方法を理解する。	☐ ☐
		62-80	2章 1節 点と直線	1.2点間の距離 2.内分点・外分点 3.直線の方程式	2点間の距離を求める。 内分点・外分点を求める。 条件から直線の方程式を求める	☐ ☐ ☐
				4.2直線の関係	2直線の位置関係を調べ、直線図形の解析的な考察ができる。	☐
1学期期末考査	2章 図形と方程式 4章 指数関数・対数関数	81-93	2節 円	1.円の方程式 2.円と直線	円の方程式を理解する。 円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式で求められる。	☐ ☐
		94-107	3節 軌跡と領域	1.軌跡の方程式 2.不等式の表す領域	軌跡の方程式を求められる。 不等式の満たす直線や円の領域を求めることができる。	☐ ☐
		150-161		3.連立不等式の表す領域	連立不等式の表す領域を求めることができる。 領域と最大値・最小値の求め方を理解する。	☐ ☐
			4章 1節 指数関数	1.指数法則 2.累乗根 3.指数の拡張 4.指数関数とそのグラフ	指数の拡張を理解する。 累乗根の計算ができる。 指数を拡張しても、指数法則がなりたつ事を理解する。 指数関数のグラフを利用して、方程式・不等式を解く。	☐ ☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	4章 指数関数・対数関数	162-175	4章 2節 対数関数	1.対数とその性質 2.対数関数そのグラフ 3.常用対数	対数の性質を理解する。 対数関数のグラフの特徴と性質を理解する。 常用対数を使うことにより、自然数の桁数を求められる。	☐ ☐ ☐
		178-191	5章 1節 微分係数 と導関数	1.微分係数 2.導関数	グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。 導関数の定義を覚える。	☐ ☐
	5章 微分・積分	192-205	2節 導関数の応用	1.接線 2.関数の増減 と極大・極小 3.関数の最大・最小 4.方程式・不等式の応用	接線の方程式を求められる。 増減表をかくて、極大・極小を求める。 増減表をかくて、グラフをかき、最大値・最小値を求める。 微分法を用いて、関数のグラフをかき、方程式の解の個数を求める。不等式の証明ができる。	☐ ☐ ☐ ☐
2学期期末考査	5章 微分・積分	206-229	5章 3節 積分 三角比・三角関数の 復習	1.不定積分 2.定積分 3.定積分と面積	整関数についての不定積分の計算ができる。 定積分の計算ができる。 直線や放物線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。 1 年次に学習した三角比や三角関数の基本事項を復習する。	☐ ☐ ☐ ☐
3学期学年末考査			数学ⅠAⅡ問題演習	三角比・三角関数 方程式・式の証明 図形と方程式 微分・積分 他	プリントや問題集を使って、理解を深め、計算力はもちろん、論理的思考力をつける。	☐

2021年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 5・6 組 理スタンダード	教科	数学	科目	数学Ⅱ
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用させる。				
教材	数学Ⅱ Advanced（東京書籍）・数学Ⅲ Advanced（東京書籍）				
副教材等	Hi-Prime 数学Ⅱ 数学Ⅱ＋B（東京書籍） はぎとり式 練習ドリル 数学Ⅱ（数研出版）				

1. 学習内容

「1章 方程式・式と証明」では、整式の除法と分数式の計算の仕方、複素数まで数を拡張することによって、2次方程式が必ず解を持つことを学びます。また、因数定理を用いた簡単な高次方程式も扱います。その後、等式・不等式の証明の仕方を学びます。

「2章 図形と方程式」では、直線や円を方程式で表す方法を学びます。さらに、与えられた条件を満たす点の軌跡や領域を表す方法を学びます。

「4章 指数関数・対数関数」では、累乗の指数を実数にまで拡張し、指数関数の性質を考察します。指数関数のグラフから対数の意味を理解し、対数の性質、対数関数の性質を考察します。

「5章 微分と積分」では、まず微分係数を定義し、そこから導関数を定義します。導関数の応用として、接線や関数の増減について考察します。微分の逆の演算として積分を導入し、その性質や計算方法を学びます。

数学Ⅲは「3章 関数と極限」と「4章 微分」の導関数について学びます。

2. アドバイス

数学Ⅱでは、数学Ⅰで学んだ内容をもとに発展させている内容が多く見られます。したがって、前学年までに学んだ内容を理解していることが求められるので、しっかり復習しておきましょう。1章では、「因数分解」「解の公式」「判別式」「二次不等式」「平方完成」。2章では、「三平方の定理」「重心」「直線の方程式（1次関数）」「円と直線の位置関係」「不等式」。4章では、「指数・対数法則」。などです。「5章 微分と積分」では、導関数を定義します。導関数の応用として、接線や関数の増減について考察します。微分の逆の演算として積分を導入し、その性質や計算方法を学びます。

数学Ⅲでは、分数関数や無理関数のグラフを学び、いろいろな関数の導関数の計算方法を学びます。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点（小テスト・朝テスト・ノート提出・授業への参加態度）

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 方程式・式と証明	36-43	1章 3節 高次方程式	1.因数定理 2.簡単な高次方程式	因数定理を理解する。 複2次式や因数定理による高次方程式を知る。	☐ ☐
	2章 図形と方程式	44-59	4節 式と証明	1.恒等式 2.不等式の証明 ・組立除法	恒等式について理解する。 不等式の証明におけるさまざまな方法を理解する。	☐ ☐
1学期期末考査	2章 図形と方程式	62-80	2章 1節 点と直線	1.2点間の距離 2.内分点・外分点 3.直線の方程式 4.2直線の関係	2点間の距離を求める。 内分点・外分点を求める。 条件から直線の方程式を求める 2直線の位置関係を調べ、直線図形の解析的な考察ができる。	☐ ☐ ☐ ☐
	4章 指数関数・対数関数	81-93	2節 円	1.円の方程式 2.円と直線	円の方程式を理解する。 円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式で求められる。	☐ ☐
		94-107	3節 軌跡と領域	1.軌跡の方程式 2.不等式の表す領域 3.連立不等式の表す領域	軌跡の方程式を求められる。 不等式の満たす直線や円の領域を求めることができる。 連立不等式の表す領域を求めることができる。 領域と最大値・最小値の求め方を理解する。	☐ ☐ ☐ ☐
		150-161	4章 1節 指数関数	1.指数法則 2.累乗根 3.指数の拡張 4.指数関数とそのグラフ	指数の拡張を理解する。 累乗根の計算ができる。 指数を拡張しても、指数法則がなりたつ事を理解する。 指数関数のグラフを利用して、方程式・不等式を解く。	☐ ☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	4章 指数関数・対数関数	162-175	4章 2節 対数関数	1.対数とその性質 2.対数関数とそのグラフ 3.常用対数	対数の性質を理解する。 対数関数のグラフの特徴と性質を理解する。 常用対数を使うことにより、自然数の桁数を求められる。	☐ ☐ ☐
	5章 微分と積分	178-191	5章 1節 微分係数と導関数	1.微分係数 2.導関数	グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。 導関数の定義を覚える。	☐ ☐
		192-205	2節 導関数の応用	1.接線 2.関数の増減と極大・極小 3.関数の最大・最小 4.方程式・不等式への応用	接線の方程式を求められる。 増減表をかいて、極大・極小を求める。 増減表をかいて、グラフをかき、最大値・最小値を求める。 微分法を用いて、関数のグラフをかき、方程式の解の個数を求める。不等式の証明ができる。	☐ ☐ ☐ ☐
2学期期末考査	5章 微分と積分	206-229	3節 積分	1.不定積分 2.定積分 3.定積分と面積	整関数についての不定積分の計算ができる。 定積分の計算ができる。 直線や放物線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる	☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3 学期 学年末 考査	数学Ⅲ 3 章 関数と極限	92-110	3 章 1 節 関数	1. 分数関数とグラフ	分数関数を理解する 漸近線の方程式の扱いに慣れ グラフがかけられるようにする	☐ ☐
				2. 無理関数とグラフ	無理関数を理解する グラフの範囲が分かる。 グラフがかけられる	☐ ☐ ☐
				3. 逆関数と合成関数	逆関数を理解する 合成関数の記号や扱いに慣れる	☐ ☐
			2 節 数列の極限	1 数列の極限	数列の極限や関数の極限を理解する。	☐
				2. 無限等比数列	無限数列, 数列の極限值が求められる。	☐
				3. 無限級数	数列の収束・発散・振動が理解できる。	☐
		111-132	3 節 関数の極限	4. 無限等比級数	無限級数の収束・発散・和が求まる。	☐
				5. いろいろな無限級数	無限等比級数収束・発散・和が求まる。 いろいろな無限級数の和と収束・発散がわかる。	☐ ☐
				1. 関数の極限	関数での極限が求められる。	
				2. 三角関数と極限	三角関数の極限が求められる。 連続であることの条件を理解し、 中間値の定理を扱える。	
				3. 関数の連続性		

2021年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 7 組 理ハイレベル	教科	数学	科目	数学Ⅱ
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用させる。				
教材	数学Ⅱ Advanced（東京書籍）・数学Ⅲ Advenced（東京書籍）				
副教材等	Hi-Prime 数学Ⅱ 数学Ⅱ＋B（東京書籍） はぎとり式 練習ドリル 数学Ⅱ（数研出版）				

1. 学習内容

「1章 方程式・式と証明」では、整式の除法と分数式の計算の仕方、複素数まで数を拡張することによって、2次方程式が必ず解を持つことを学びます。また、因数定理を用いた簡単な高次方程式も扱います。その後、等式・不等式の証明の仕方を学びます。

「2章 図形と方程式」では、直線や円を方程式で表す方法を学びます。さらに、与えられた条件を満たす点の軌跡や領域を表す方法を学びます。

「4章 指数関数・対数関数」では、累乗の指数を実数にまで拡張し、指数関数の性質を考察します。指数関数のグラフから対数の意味を理解し、対数の性質、対数関数の性質を考察します。

「5章 微分と積分」では、まず微分係数を定義し、そこから導関数を定義します。導関数の応用として、接線や関数の増減について考察します。微分の逆の演算として積分を導入し、その性質や計算方法を学びます。

数学Ⅲは「3章 関数と極限」と「4章 微分」の導関数について学びます。

2. アドバイス

数学Ⅱでは、数学Ⅰで学んだ内容をもとに発展させている内容が多く見られます。したがって、前学年までに学んだ内容を理解していることが求められるので、しっかり復習しておきましょう。1章では、「因数分解」「解の公式」「判別式」「二次不等式」「平方完成」。2章では、「三平方の定理」「重心」「直線の方程式（1次関数）」「円と直線の位置関係」「不等式」。4章では、「指数・対数法則」。などです。「5章 微分と積分」では、導関数を定義します。導関数の応用として、接線や関数の増減について考察します。微分の逆の演算として積分を導入し、その性質や計算方法を学びます。

数学Ⅲでは、分数関数や無理関数のグラフを学び、いろいろな関数の導関数の計算方法を学びます。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点（小テスト・朝テスト・ノート提出・授業への参加態度）

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期中間考査	1 章 方程式・式と証明 2 章 図形と方程式	36-43	1 章 3 節 高次方程式	1.因数定理 2.簡単な高次方程式	因数定理を理解する。 複2次式や因数定理による高次方程式を知る。	☐ ☐
		44-59	4 節 式と証明	1.恒等式 2.不等式の証明 ・組立除法	恒等式について理解する。 不等式の証明におけるさまざまな方法を理解する。	☐ ☐
		62-	2 章 1 節 点と直線	1.2点間の距離 2.内分点・外分点 3.直線の方程式 4.2直線の関係	2点間の距離を求める。 内分点・外分点を求める。 条件から直線の方程式を求める 2直線の位置関係を調べ、直線図形の解析的な考察ができる。	☐ ☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐
1 学期期末考査	2 章 図形と方程式 4 章 指数関数・対数関数	83-93	2 節 円	1.円の方程式 2.円と直線	円の方程式を理解する。 円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式で求められる。	☐ ☐
		94-107	3 節 軌跡と領域	1.軌跡の方程式 2.不等式の表す領域 3.連立不等式の表す領域	軌跡の方程式を求められる。 不等式の満たす直線や円の領域を求めることができる。 連立不等式の表す領域を求めることができる。 領域と最大値・最小値の求め方を理解する。	☐ ☐ ☐ ☐
		150-161	4 章 1 節 指数関数	1.指数法則 2.累乗根 3.指数の拡張 4.指数関数とそのグラフ	指数の拡張を理解する。 累乗根の計算ができる。 指数を拡張しても、指数法則がなりたつ事を理解する。 指数関数のグラフを利用して、方程式・不等式を解く。	☐ ☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	4章 指数関数・対数関数 5章 微分と積分	162-175	4章 2節 対数関数	1. 対数とその性質 2.対数関数とそのグラフ 3.常用対数	対数の性質を理解する。 対数関数のグラフの特徴と性質を理解する。 常用対数を使うことにより、自然数の桁数を求められる。	☐ ☐ ☐
			5章 1節 微分係数と導関数	1.微分係数 2.導関数	グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。 導関数の定義を覚える。	☐ ☐
		178-189	2節 導関数の応用	1.接線 2.関数の増減と極大・極小 3.関数の最大・最小 4.方程式・不等式への応用	接線の方程式を求められる。 増減表をかいて、極大・極小を求める。 増減表をかいて、グラフをかき、最大値・最小値を求める。 微分法を用いて、関数のグラフをかき、方程式の解の個数を求める。不等式の証明ができる。	☐ ☐ ☐ ☐
				ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う
2学期期末考査	5章 微分と積分	204-227	3節 積分	1. 不定積分 2. 定積分 3. 定積分と面積	整関数についての不定積分の計算ができる。 定積分の計算ができる。 直線や放物線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる	☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	数学Ⅲ 3章 関数と極限	76-89	3 章 1 節 関数	1.分数関数とグラフ	分数関数を理解する 漸近線の方程式の扱いに慣れ グラフがかけられるようにする	☐ ☐
				2.無理関数とグラフ	無理関数を理解する グラフの範囲が分かる。 グラフがかける	☐ ☐ ☐
				3.逆関数と合成関数	逆関数を理解する 合成関数の記号や扱いに慣れる	☐ ☐
		90-108	2 節 数列の極限	1.数列の極限	数列の極限や関数の極限を理解する。	☐
				2.無限等比数列	無限数列, 数列の極限值が求められる。	☐
				3.無限級数	数列の収束・発散・振動が理解できる。	☐
				4.無限等比級数	無限級数の収束・発散・和が求まる。	☐
				5.いろいろな無限級数	無限等比級数収束・発散・和が求まる。	☐
		111-132	3 節 関数の極限	1. 関数の極限	いろいろな無限級数の和と収束・発散がわかる。	☐
				2. 三角関数と極限	関数での極限が求められる。 三角関数の極限が求められる。	
				3.関数の連続性	連続であることの条件を理解し、 中間値の定理を扱える。	
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～4 組 文コース	教科	数学	科目	数学 B(選択)
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	基礎的な知識の習得及び基礎的な概念の理解をさせて、記号と演算の取り扱いの習熟を図り、数学的に考察・表現する能力を伸ばす。				
教材	数学 B Advanced(東京書籍)				
副教材等	Hi-Prime II +B(東京書籍) 練習ドリル数学B(数研出版)				

1. 学習内容

第 1 章 数列

等差数列, 等比数列の一般項及び和の求め方や Σ の記号を使った計算を学びます。また、いろいろな数列の一般項と和の求め方を学びます。その後、漸化式の一般項を求め方と数学的帰納法による証明の仕方を学びます。

第 2 章 ベクトル

平面上のベクトルの加法、減法、実数倍、内積の計算を学びます。また、位置ベクトル、図形のベクトル方程式、図形への応用を学びます。空間ベクトルでは、空間座標と空間ベクトルや位置ベクトルと空間の図形を学びます。

2. アドバイス

数列は規則性を見つけることが大切です。その規則を簡単な式で表しうまく使えるように練習すると良いでしょう。小テスト及び課題のプリントを何回も解いてみて下さい。基本問題をたくさん解きましょう。予習、復習だけではなく、毎日少しずつ問題を解く(勉強する)習慣をつけることが大切です。

ベクトルについては、意味や成分の表し方、内積の理解と使用方法などに慣れるようにしましょう。文字式の計算とベクトルの計算の相違点をまとめてみることも学習効果をたかめる方法です。また、座標平面とベクトルで表された直線や円については、数学Ⅱでも履修しているので比較すると良いでしょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点(小テスト・宿題・ノート提出・課題提出・授業への積極的参加)

4. 學習指導計畫

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 数列	6-30	1 章 1 節 数列	1.数列 2.等差数列 3.等差数列の和 4.等比数列 5.等比数列の和 6.和の記号 Σ 7.いろいろな数列	数列の用語を理解する	☐
					等差数列の一般項が求める	☐
					和の公式を使って和が求められる	☐
					等比数列の一般項が求める	☐
					等比数列の和が求められる	☐
					Σ の記号になれ、使えるようにする。	☐
					階差数列を用いて一般項を表す	☐
数列の和から一般項を求める	☐					
部分分数を利用して、数列の和を求められるようにする。	☐					
1学期期末考査	1章 数列	31-48	2 節 漸化式と 数学的帰納法	1.漸化式 2.数学的帰納法	漸化式の意味を理解させる	☐
					等差, 等比の漸化式を理解する	☐
					階差数列が等差, 等比になるときの漸化式を理解する。	☐
					漸化式より一般項を求める	☐
					特性方程式を利用する漸化式の問題を解けるようにする	☐
					数学的帰納法の証明方法を理解する	☐
					数学的帰納法を使って、等式・不等式の証明をする。	☐
数学的帰納法による漸化式の一般項証明を理解する	☐					

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3 学期学年末考査	2 章ベクトル	87-114	2 章 3 節 空間における ベクトル	1.空間座標	空間の点が3つの実数の組として表現できることを理解する	☐
				2.空間におけるベクトル	簡単な平面の方程式を求める 簡単な空間ベクトルの計算ができる	☐
				3.位置ベクトルと 空間の図形	空間における基本ベクトル表示・成分表示ができる 空間の図形に内積を応用することができる	☐
					球の方程式及び球のベクトル方程式が理解できる	☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 5・6 組 理スタンダード	教科	数学	科目	数学 B
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	基礎的な知識の習得及び基礎的な概念の理解をさせて、記号と演算の取り扱いの習熟を図り、数学的に考察・表現する能力を伸ばす。				
教材	数学 B Advanced(東京書籍)				
副教材等	Hi－Prime II ＋B(東京書籍) 練習ドリル数学B(数研出版)				

1. 学習内容

第 1 章 数列

等差数列, 等比数列の一般項及び和の求め方や Σ の記号を使った計算を学びます。また、いろいろな数列の一般項と和の求め方を学びます。その後、漸化式の一般項を求め方と数学的帰納法による証明の仕方を学びます。

第 2 章 ベクトル

平面上のベクトルの加法、減法、実数倍、内積の計算を学びます。また、位置ベクトル、図形のベクトル方程式、図形への応用を学びます。空間ベクトルでは、空間座標と空間ベクトルや位置ベクトルと空間の図形を学びます。

2. アドバイス

数列は規則性を見つけることが大切です。その規則を簡単な式で表しうまく使えるように練習すると良いでしょう。小テスト及び課題のプリントを何回も解いてみて下さい。基本問題をたくさん解きましょう。予習、復習だけではなく、毎日少しずつ問題を解く(勉強する)習慣をつけることが大切です。

ベクトルについては、意味や成分の表し方、内積の理解と使用方法などに慣れるようにしましょう。文字式の計算とベクトルの計算の相違点をまとめてみることも学習効果をたかめる方法です。また、座標平面とベクトルで表された直線や円については、数学Ⅱでも履修しているので比較すると良いでしょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点(小テスト・宿題・ノート提出・課題提出・授業への積極的参加)

4. 學習指導計畫

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 数列	6-30	1章 1節 数列	1.数列 2.等差数列 3.等差数列の和 4.等比数列 5.等比数列の和 6.和の記号 Σ 7.いろいろな数列	数列の用語を理解する 等差数列の一般項が求める 和の公式を使って和が求められる 等比数列の一般項が求める 等比数列の和が求められる Σ の記号になれ、使えるように する。 階差数列を用いて一般項を表 す 数列の和から一般項を求める 部分分数を利用して、数列の 和を求められるようにする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		31-48	2節 漸化式と 数学的帰納法	1.漸化式 2.数学的帰納法	漸化式の意味を理解させる 等差, 等比の漸化式を理解す る 階差数列が等差, 等比になると きの漸化式を理解する。 漸化式より一般項を求める 特性方程式を利用する漸化式 の問題を解けるようにする 数学的帰納法の証明方法を理 解する 数学的帰納法を使って、等式・ 不等式の証明をする。 数学的帰納法による漸化式の 一般項証明を理解する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
1学期期末考査	1章 数列					

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	2章ベクトル	50-69	2 章 1 節 平面上のベクトル	1.ベクトルの意味	ベクトルを表す方法を理解する	☐
				2.ベクトルの加法,減法, 実数倍	図形で加法、減法を理解し、 使用できるようにする。 基本ベクトルでベクトルを表 すことができる。	☐
				3.ベクトルの成分	成分で表し、演算ができる 2つのベクトルの平行を理解 させ計算できるようにする	☐
				4.ベクトルの内積	内積の扱い方に慣れる 内積を利用した問題を解ける ようにする。	☐
						☐
						☐
						☐
						☐
2学期期末考査	2章ベクトル	70-86	2 節 ベクトルの応用	1.位置ベクトル	位置ベクトルを理解し利用す ることができる。	☐
				2.ベクトル方程式	方向ベクトルを理解する	☐
					直線をベクトルを利用して表 すことを理解する	☐
					媒介変数表示の良さを認識 する	☐
					円のベクトル方程式を理解す る	☐
					内積を使って三角形の面積 を求める	☐
					中線定理を理解し、活用でき る	☐
						☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3 学期学年末考査	2 章 ベクトル	87-114	2 章 3 節 空間における ベクトル	1.空間座標	空間の点が3つの実数の組として表現できることを理解する	☐
					簡単な平面の方程式を求める	☐
				2.空間におけるベクトル	簡単な空間ベクトルの計算ができる	☐
					空間における基本ベクトル表示・成分表示ができる	☐
				3.位置ベクトルと 空間の図形	空間の図形に内積を応用することができる	☐
				球の方程式及び球のベクトル方程式が理解できる	☐	

2020 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 7 組 理ハイレベル	教科	数学	科目	数学 B
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	基礎的な知識の習得及び基礎的な概念の理解をさせて、記号と演算の取り扱いの習熟を図り、数学的に考察・表現する能力を伸ばす。				
教材	数学 B Advanced(東京書籍)				
副教材等	Hi－Prime II +B(東京書籍) 練習ドリル数学B(数研出版)				

1. 学習内容

第 1 章 数列

等差数列, 等比数列の一般項及び和の求め方や Σ の記号を使った計算を学びます。また、いろいろな数列の一般項と和の求め方を学びます。その後、漸化式の一般項を求め方と数学的帰納法による証明の仕方を学びます。

第 2 章 ベクトル

平面上のベクトルの加法、減法、実数倍、内積の計算を学びます。また、位置ベクトル、図形のベクトル方程式、図形への応用を学びます。空間ベクトルでは、空間座標と空間ベクトルや位置ベクトルと空間の図形を学びます。

2. アドバイス

数列は規則性を見つけることが大切です。その規則を簡単な式で表しうまく使えるように練習すると良いでしょう。小テスト及び課題のプリントを何回も解いてみて下さい。基本問題をたくさん解きましょう。予習、復習だけではなく、毎日少しずつ問題を解く(勉強する)習慣をつけることが大切です。

ベクトルについては、意味や成分の表し方、内積の理解と使用方法などに慣れるようにしましょう。文字式の計算とベクトルの計算の相違点をまとめてみることも学習効果をたかめる方法です。また、座標平面とベクトルで表された直線や円については、数学Ⅱでも履修しているので比較すると良いでしょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点(小テスト・宿題・ノート提出・課題提出・授業への積極的参加)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 数列	6-30	1章 1節 数列	1.数列 2.等差数列 3.等差数列の和 4.等比数列 5.等比数列の和 6.和の記号 Σ 7.いろいろな数列	数列の用語を理解する 等差数列の一般項が求める 和の公式を使って和が求められる 等比数列の一般項が求める 等比数列の和が求められる Σ の記号になれ、使えるように する。 階差数列を用いて一般項を表 す 数列の和から一般項を求める 部分分数を利用して、数列の 和を求められるようにする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐
1学期期末考査	1章 数列	31-48	2節 漸化式	1.漸化式 2.数学的帰納法	漸化式の意味を理解させる 等差, 等比の漸化式を理解す る 階差数列が等差, 等比になると きの漸化式を理解する。 漸化式より一般項を求める 特性方程式を利用する漸化式 の問題を解けるようにする 数学的帰納法の証明方法を理 解する 数学的帰納法を使って、等式・ 不等式の証明をする。 数学的帰納法による漸化式の 一般項証明を理解する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	2章ベクトル	50-69	2 章 1 節 平面上のベクトル	1.ベクトルの意味 2.ベクトルの加法,減法,実数倍 3.ベクトルの成分 4.ベクトルの内積	ベクトルを表す方法を理解する 図形で加法、減法を理解し、使用できるようにする。 基本ベクトルでベクトルを表すことができる。 成分で表し、演算ができる 2つのベクトルの平行を理解させ計算できるようにする 内積の扱い方に慣れる 内積を利用した問題を解けるようにする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐
2学期期末考査	2章ベクトル	70-86	2 節 ベクトルの応用	1.位置ベクトル 2.ベクトル方程式	位置ベクトルを理解し利用することができる。 方向ベクトルを理解する 直線をベクトルを利用して表すことを理解する 媒介変数表示の良さを認識する 円のベクトル方程式を理解する 内積を使って三角形の面積を求める 中線定理を理解し、活用できる	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	2章 ベクトル	87-114	2 章 3 節 空間における ベクトル	1.空間座標 2.空間におけるベクトル 3.位置ベクトルと 空間の図形	空間の点が3つの実数の組 として表現できることを理解 する 簡単な平面の方程式を求め る 簡単な空間ベクトルの計算が できる 空間における基本ベクトル表 示・成分表示ができる 空間の図形に内積を応用す ることができる 球の方程式及び球のベクト ル方程式が理解できる	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～4 組	教科	理科	科目	文系理科演習(化学基礎)
				単位数	1
「学び」の 目標とねらい	身の回りのものすべてが原子で構成されていることを理解する。				
教材	『新版化学基礎』 実教出版 ※昨年度配布の教科書				
副教材等	【必携】 『大学入試センター試験対策問題集』 実教出版 化学基礎授業ノート ※昨年度に自分で筆記したもの 【あると便利なもの】 『アクセスノート化学基礎』 実教出版 ※昨年度配布				

1. 学習内容

1学年次に学んだ化学基礎の問題演習を行います。センター試験で8割(40 点)以上の得点をすることを目標とします。

毎回課される暗記の課題をくり返していくことで知識の定着を図るとともに、授業においてはセンター試験類似問題に取り組みます。なお次頁以降の「4. 学習指導計画」の教材頁は、副教材のものを表しています。

2. アドバイス

- ・授業に集中して参加すること。
- ・きちんと板書し、後に自分が利用できるノートをつくること。
- ・口頭でなされた説明もノートにメモする習慣をつけること。
- ・暗記すべき事がらをしっかり暗記すること。
- ・問題を解くときは、図表にあらわして理解する習慣をつけること。
- ・出される課題、指示された小テストにしっかり取り組むこと。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点(小テスト・課題・ノート提出・出席)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	入試対策	2-16	物質の構成	物質の分離・精製	・さまざまな分離法を理解することができる。	☐
				原子の構造	・原子の構造(陽子・中性子・電子)を理解することができる。	☐
				電子配置	・原子番号 20 までの電子配置を示すことができる。	☐
				イオンとイオンの生成	・価電子の数と周期表の関係を理解することができる。	☐
					・イオンの生成を電子配置から理解することができる。	☐
					・イオン化 En・電子親和力について理解することができる。	☐
			周期律と周期表	・原子番号 36 までの元素周期表を書くことができる。	☐	
				・典型・遷移元素、金属・非金属元素の分類ができる。	☐	
1学期期末考査	入試対策	17-35	物質の変化	物質量の計算	・物質量をテーマとした計算問題を解くことができる。	☐
				溶液の濃度	・質量パーセント濃度の意味を理解することができる。	☐
					・モル濃度の意味を理解することができる。	☐
				化学反応式	・化学反応式をつくるときの決まりを理解することができる。	☐
				化学変化の量的関係	・量的関係をテーマとした計算問題を解くことができる。	☐
				酸・塩基の価数・強弱	・酸・塩基を強弱ごとに分類することができる。	☐
					・指示薬の変色域を述べることができる。	☐
				中和反応	・中和のしくみを理解することができる。	☐
					・反応する酸と塩基の種類から滴定曲線が判断できる。	☐
				塩の分類と水溶液	・塩の種類について理解することができる。	☐
		酸化還元	・化合物・イオンの中にある各原子の酸化数を求められる。	☐		
		金属のイオン化傾向	・金属のイオン化列をおぼえることができる。	☐		
	電池	・ダニエル電池のしくみを理解することができる。	☐			
		・鉛蓄電池のしくみを理解することができる。	☐			
		36-42	日常生活の化学	日常生活の化学	・生活で見かける物質を化学的な側面からとらえることができる。	☐
夏休み			各自で復習を行う			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
2学期中間考査	入試対策	43-51	計算化学 復習	物質量の計算 溶液の計算 pH の計算 中和の計算 酸化還元反応の計算 復習	・物質量の計算問題を解くことができる。 ・水溶液の計算問題を解くことができる。 ・pH の計算問題を解くことができる。 ・中和の計算問題を解くことができる。 ・酸化還元反応の計算問題を解くことができる。 ・過去の知識を適宜活用することができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2学期期末考査	入試対策	52-65	実験・グラフ 復習	実験 グラフ 復習	・実験装置を題材にした問題を解くことができる。 ・さまざまなグラフを読み取ることができる。 ・過去の知識を適宜活用することができる。	☐ ☐ ☐
冬休み			各自で復習を行う			
3学期学年末考査		66-71	類似問題演習 復習	センター試験類似問題 復習	・化学基礎全範囲からの出題に適切に対応することができる。 ・過去の知識を適宜活用することができる。	☐ ☐
春休み			各自で復習を行う			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～4 組	教科	理科	科目	文系理科演習(生物基礎)
				単位数	1
「学び」の 目標とねらい	学んだことが実生活に生かされていることを理解できる。				
教材	【必携】『大学入試センター試験対策問題集 生物基礎』 実教出版				
副教材等	【必携】『改訂版 フォトサイエンス生物図録』数研出版 【必携】授業プリント(1 年次生物基礎) 『改訂版 スタディアップノート生物基礎』数研出版				

1. 学習内容

この授業では、国公立大学文系を志望する生徒が大学入学共通テストで高得点が取れるように、1 年次に学習した生物基礎の演習を行います。

1 年次の問題集の小テストで知識の定着の確認をし、プリントなどを用いて演習を行います。

1 年次に使用した授業プリントや演習プリントを用いて、各自が復習をしながら授業に臨めば、難なく演習ができるでしょう。

2. アドバイス

共通テストは教科書レベルですが、全国平均点は 29.2 点(50 点満点、2021 年度入試)です。それは、「組合せ問題」や「過不足なく含むものを選ぶ問題」など、出題内容に対する正確な理解と選択肢の丁寧な読み取りが要求される出題だからです。そのため、日頃から「何となく正解を選ぶ」のではなく、「正解は絶対にこれしかない」と自分で判断できるようになるまで演習を繰り返さなければなりません。求められるのは、正確な知識と、問題文を読み取る読解力です。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点(小テスト・課題)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	復習と演習	2-9 34-41 44-50	生物と遺伝子	生物の共通性と多様性 細胞とエネルギー 遺伝子の本体 遺伝情報の分配	基本マスターの問題が解ける 一問一答正誤問題が解ける 実験・考察・計算問題が解ける	☐ ☐ ☐
1学期期末考査	復習と演習	10-16 42-43 51-55 62-67	生物と遺伝子 体内環境の維持	タンパク質の合成 体液とその循環 体内環境の維持	基本マスターの問題が解ける 一問一答正誤問題が解ける 実験・考察・計算問題が解ける	☐ ☐ ☐
夏休み	復習		1学期の復習			☐
2学期中間考査	復習と演習	17-24 56-61 68-71 82-83	体内環境の維持 生物の多様性と生態系	血糖量・体温などの調節 免疫 植生と遷移	基本マスターの問題が解ける 一問一答正誤問題が解ける 実験・考察・計算問題が解ける	☐ ☐ ☐
2学期期末考査	復習と演習	25-33 72-81 84-89	生物の多様性と生態系	気候とバイオーム 生態系と物質・エネルギーの移動 人間活動による生態系への影響	基本マスターの問題が解ける 一問一答正誤問題が解ける 実験・考察・計算問題が解ける	☐ ☐ ☐
冬休み	復習		これまでの復習			☐
3学期学年末考査	入試対策	90-108	全範囲	模擬問題	センター試験予想問題が解ける	☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 5～7 組	教科	理科	科目	化学
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	気体や液体の動態を数理的思考で理解・記述する。				
教材	『新版化学』 実教出版				
副教材等	【必携】『アクセスノート化学』 実教出版 【あると便利なもの】『新版化学基礎』 実教出版 ※昨年度配布の教科書				

1. 学習内容

化学基礎に引き続いての学習となります。より発展的な内容について学びます。

1 学期の学習内容は無機化合物と有機化合物です。さまざまな化合物の性質や製法を理解することが中心となりますので、きちんと暗記し整理していくことが不可欠です。

2 学期は芳香族有機化合物および気体・溶液のふるまいについて学習します。特に気体・溶液は、数式で理解をしていかなければならない分野です。分数や桁数の多い小数の計算をスピーディに行えなければなりません。授業を受ける前提として、高い計算能力を身につけていたいものです。

3 学期は熱化学・反応速度・化学平衡を学習します。特に文字式を多用することが多く、文字で表されたものでもすぐに頭の中でイメージができるようになることが要求されます。

単位数も多く、油断するとすぐに理解できなくなります。毎日復習をすることが必要です。ハイレベルクラスは入試問題にも取り組む予定です。

2. アドバイス

- ・授業に集中して参加すること。
- ・きちんと板書し、後に自分が利用できるノートをつくること。
- ・口頭でなされた説明もノートにメモする習慣をつけること。
- ・暗記すべき事がらをしっかり暗記すること。
- ・問題を解くときは、図表にあらわして理解する習慣をつけること。
- ・出される課題、指示された小テストにしっかり取り組むこと。
- ・必ず復習を行うこと。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点(小テスト・課題・ノート提出・出席)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	無機物質	130-149	非金属元素	元素の分類と周期表 非金属元素	・周期表に基づいた元素の分類ができる。 ・非金属元素の単体、化合物の性質と特徴が分かる。	☐ ☐
		150-180	金属元素(Ⅰ) 金属元素(Ⅱ)	典型金属元素 遷移金属元素	・典型金属元素の単体、化合物の性質・特徴が分かる。 ・遷移金属元素の単体その化合物の性質・特徴が分かる。 ・錯イオンの構造を理解し、名称や化学式を書くことができる。 ・金属イオンの分離・確認ができる。	☐ ☐ ☐ ☐
1学期期末考査	有機化合物	182-189	有機化合物の特徴と分類	有機化合物の分析 飽和・不飽和炭化水素	・元素分析から分子式の決定ができる。 ・炭化水素の構造と性質がわかる。	☐ ☐
		190-199 200-217	脂肪族炭化水素 アルコールと関連化合物	アルコールとその誘導体 カルボン酸とエステル	・異性体を理解し、過不足なく示すことができる。 ・アルコールおよびその誘導体の構造と性質が分かる。 ・アルコールの酸化反応を理解することができる。 ・カルボン酸およびエステルの構造と性質がわかる。 ・エステル化反応を理解することができる。 ・油脂の構造が分かり、計算問題を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
夏休み			各自でも復習を行う 重点項目： 周期表・ハロゲンの酸化力・硫化水素・硫酸・硝酸・アンモニア アルカリ金属・アルカリ土類金属・両性元素・錯イオン・金属の分類 元素分析・異性体・付加反応・アルコールの酸化・ヨードホルム反応 エステル化・油脂・けん化			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
2学期中間考査	有機化合物・物質の状態	218-240	芳香族化合物	芳香族炭化水素	・ベンゼンの構造と性質・反応が分かる。	☐
				含酸素芳香族化合物	・フェノール類や芳香族カルボン酸の構造と性質・反応が分かる。	☐
				含窒素芳香族化合物	・アニリンの構造と性質・反応が分かる。	☐
				有機化合物の分離	・有機化合物の混合物を分離するしくみが分かる。	☐
		32-39	粒子の結合と結晶の構造	イオン結合	・イオン結合のしくみが分かる。	☐
				共有結合	・共有結合のしくみが分かり、構造式が書ける。	☐
				金属結合と金属結晶	・結晶格子の計算問題が解ける。	☐
2学期期末考査	物質の状態	8-19	物質の三態と状態変化	状態変化とエネルギー	・物質の三態をエネルギーの側面からとらえることができる。	☐
		20-31	気体	気体の状態方程式	・ボイル・シャルルの法則を理解し、計算に応用することができる。	☐
					・気体の状態方程式を理解し、計算に応用することができる。	☐
		40-64	溶液	溶解度	・溶解度に関する計算問題を解くことができる。	☐
					・ヘンリーの法則を理解し、計算に応用することができる。	☐
				希薄溶液の性質	・蒸気圧降下のしくみを理解することができる。	☐
				コロイド溶液	・コロイド粒子の動態を理解することができる。	☐
冬休み			各自でも復習を行う 重点項目： 芳香族置換反応・異性体・フェノール合成ルート・サリチル酸合成ルート アニリン合成ルート・水溶性と難溶性 イオン結合・共有結合・結晶格子・気体の状態方程式・溶解度・浸透圧 蒸気圧降下・コロイド			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
3 学期 学 年 末	物質 の 変 化	66-79	化学反応とエネルギー	熱化学	・反応熱の出入りを熱化学方程式で表すことができる。	☐
		92-101	化学反応の速さとしくみ	反応速度	・反応熱や結合エネルギーをエネルギー図で理解することができる。 ・反応速度を支配する要因が何であるかが分かる。	☐ ☐
		102-128	化学平衡	化学平衡	・反応速度を求め、反応速度式で表すことができる。 ・ルシャトリエの法則を理解することができる。 ・平衡の様子を平衡定数Kを用いて記述することができる。 ・平衡をテーマとした各種計算問題を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐
春 休 み			春期講習:2年次の復習と演習 各自でも復習を行う 重点項目: 熱化学方程式・反応速度・ルシャトリエの法則 濃度平衡・圧平衡・電離平衡・緩衝液・塩の加水分解			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 5～7 組 理コース	教科	理科	科目	物理
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	物理学が過去の欧米での研究により発展してきた過程と結びつけながら、授業の内容を理解する。				
教材	『総合物理 ¹ 』 数研出版 『総合物理 ² 』 数研出版				
副教材等	【必携】『センサー総合物理 新訂版』 啓林館				

1. 学習内容

第1編の力学分野では物理基礎で学んだ定理や法則を利用して様々な物体の運動について学んでいく。相対速度、力のモーメント、運動量と力積、慣性力、円運動、単振動、万有引力等を中心に学ぶ。

第2編の熱力学では熱量、ボイルシャルルの法則、気体の状態方程式、内部エネルギー、熱力学第一法則、熱機関を学ぶ。

第3編の波では物理基礎で学んだ波の基本性質を利用し、ドップラー効果、レンズ、光の干渉を中心に学んでいく。

第4編の電磁気は、2 年次では電気分野のみ扱い、磁力による磁場（ローレンツ力、電磁誘導、交流回路）は 3 年次に学習する。静電気の存在から電気力（静電気力）を基本として、そこから電気回路を学ぶ。

今年度を使って共通テスト「物理」の試験範囲のうち、8 割ほどが終了する。かなり盛りだくさんな内容であるため、宿題や小テストを利用して、復習を適宜入れつつ進めていく。

2. アドバイス

我々の身の回りには多種多様の自然現象があり、その法則を理解するのが物理です。重要な法則を理解するためにも問題演習を数多く解き、考え方を深めることを望みます。そのためには副教材の問題集を復習し、前回の授業を確実に身につけられるよう努力しましょう。少し時間がかかりますが、是非復習にしっかり取り組んで欲しいと思います。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点（小テスト・課題・出席）

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	運動の法則 運動量の保存	8-9	変位	平面内の変位、速度	ベクトルを用いて、物体の位置、速度を表すことができる	☐
		36-43	落体の運動	水平投射 斜方投射	水平投射運動を解析できる 斜方投射運動を解析できる	☐ ☐
		78	空気抵抗	空気抵抗、終端速度	空気抵抗を受けた時の運動がわかる	☐
		79-90	剛体にはたらく力のつりあい	剛体にはたらく力 力のモーメント 剛体のつりあい 剛体にはたらく力の合力 重心	大きさのある物体の運動を理解する 力のモーメントを式を含め理解する つりあいの式を立て、剛体が動かないための条件をつくること 物体の重心の座標を求められる	☐ ☐ ☐ ☐
		115-119	運動量と力積	運動量、力積	運動量、力積を理解する	☐
		120-125	運動量保存則	運動量保存則 物体の分裂	運動量保存則を立て、それを利用し 衝突、分裂、合体について解析する	☐ ☐
		126-133	反発係数	物体の各種衝突 運動量とエネルギーの関係	反発係数を理解し、弾性衝突、非弾性衝突それぞれを解析できる 運動量とエネルギーの関係がわかる	☐ ☐
1学期期末考査	円運動と万有引力	134-139	等速円運動	角速度、周期、回転数 等速円運動の加速度 向心力	角速度について理解する 円運動するときの加速度を理解する 円運動の運動方程式を立てられる	☐ ☐ ☐
		140-146	慣性力	慣性力・遠心力	慣性力・遠心力を理解する	☐
		147-155	単振動	単振動 変位、速度、加速度 単振動に必要な力 ばね振り子 単振り子 惑星の運動	単振動の動きを理解し、その運動を解析することができる 復元力を求めることにより単振動の周期を導き出すことができる 単振り子について理解する ケプラーの法則について理解する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		156-166	万有引力	万有引力 重力 万有引力による位置エネルギー 万有引力を受ける物体の運動	万有引力の法則を理解する 重力に関して万有引力から考える 位置エネルギーを理解し、エネルギー保存則が立てられる 等速円運動、楕円運動それぞれの衛星の運動を解析することができる	☐ ☐ ☐ ☐
夏休み			夏期講習： なし 宿題： 1 学期、および 1 年次物理基礎の復習			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	熱と物質 気体のエネルギーと状態変化	182-186	熱と熱量	温度、熱量、熱容量、比熱、熱量の保存	温度について意味を理解する 熱量の保存について理解する	☐
		187-189	熱と物質の状態	物質の三態 熱膨張	融解熱や蒸発熱の潜熱が状態変化に必要であるとわかる	☐
		190-191	熱と仕事	熱と仕事の関係	ジュールの実験から熱と仕事の関係を理解する。	☐
		192-197	気体の法則	気体の圧力 ボイルシャルルの法則 気体の状態方程式	気体の圧力を算出できる ボイルシャルルの法則を利用できる 気体の状態方程式が立式できる	☐ ☐ ☐
		198-202	気体分子の運動	分子運動と圧力、平均運動エネルギー、絶対温度	気体の分子運動から気体の内部エネルギーを求められる	☐
		203-212	気体の状態変化	内部エネルギー 熱力学第一法則 気体の変化、モル比熱	内部エネルギー、仕事、熱量から熱力学第一法則を理解する 定積、定圧、等温、断熱変化について解析できる	☐ ☐
		213-219	不可逆変化と熱機関	不可逆変化 熱機関と熱効率	熱機関・熱効率についてわかる	☐
2学期期末考査	波の性質 音 光	12-17	正弦波の式	正弦波の式	任意のx、tでの正弦波の式を立てる	☐
		28-34	波の波面、干渉、反射、屈折	ホイヘンスの原理 波の干渉 屈折の法則、波の回折	ホイヘンスの原理について理解し、波の干渉、回折、屈折、反射等の現象を解析できる	☐
		52-59	ドップラー効果	音源が動く場合 観測者が動く場合 音源と観測者が動く場合	ドップラー効果について理解する ドップラー効果が起きる際の式を立て、変化した振動数を求められる	☐ ☐
		60-70	光の性質	光とその性質 光の反射、屈折、全反射 光の分散、散乱、偏光	光とは何かを理解する 光の速さの求め方を理解する 屈折の法則から、全反射を理解する 光の特徴から一般的な光の事象を理解することができる	☐ ☐ ☐ ☐
		71-81	レンズ	凸レンズ・凹レンズ 球面鏡	レンズの式を学び像の位置を求める 球面鏡の像、式を理解する	☐ ☐
		82-92	光の干渉と回折	ヤングの実験 回折格子 薄膜による干渉 くさび形空気層の干渉 ニュートンリング	光の干渉による明暗を視覚的に確認するとともに光路差を求めて干渉条件を立てることができる	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
冬休み			冬期講習： 1・2学期、および 1 年次物理基礎の復習（共通テストレベル） 宿題：1・2学期の復習			
3 学期学年末 考査	電場 電流	104-109	静電気力	静電気、帯電、 静電誘導、誘電分極 クーロンの法則	静電気の発生をもとに箔検電器等実験で帯電のしくみを視覚的にとらえる 静電気力を求められる	☐
		110-114	電場	電場、電気力線 ガウスの法則	電場について理解する 電気力線の本数を導き出せる	☐
		115-123	電位	電位、電位差と仕事、等 電位面、一様な電場	電位を理解し等電位面を描ける	☐
		124-126	物質と電場	導体と電場 不導体と電場	導体、不導体内の電場についても理解する	☐
		127-138	コンデンサー	コンデンサーの充電、電 気容量、誘電体の挿入、 コンデンサーの接続方法	コンデンサーの充電のしくみを理解する 直列、並列つなぎを解析できる	☐
		140-147	オームの法則	オームの法則、抵抗率、 電力量と電力	オームの法則を導ける 電力量、電力が計算できる	☐
			直流回路	抵抗の接続 キルヒホッフの法則	直列、並列回路について解析できる 複雑な回路をキルヒホッフの法則を用いて解析できる	☐
春休み			春期講習： 1・2学期、および 1 年次物理基礎の復習（共通テストレベル） 宿題： 特になし			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 5～7 組	教科	理科	科目	生物(選択)
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	世界の最先端の学問について触れることにより、研究の実際を理解する。				
教材	『生物』東京書籍				
副教材等	【必携】『改訂版 フォトサイエンス生物図録』数研出版 【必携】生物基礎の授業プリントすべて 『改訂版 リード Light ノート生物』数研出版 『ニューグローバル生物基礎＋生物』東京書籍 問題演習用のノート 1 冊(昨年度続きでよい)				

1. 学習内容

1 年次の生物基礎(必修)に引き続き、2 年次の生物(選択)、および 3 年次の生物演習(選択)を学習すれば、理系の生物受験に対応できるように計画しています。

2 年次の生物の授業では、生物の学習および生物基礎の復習を行います。生物は内容が多いため、3 年次の生物演習で学習が終わります。生物の内容は、生物基礎を土台とした応用、発展的内容です。生物基礎の内容がきちんと理解されていなければ、生物の内容を理解することはできません。

生物の学習は授業プリントおよび『リード Light ノート生物』問題集を中心に学習をし、生物基礎の復習は『ニューグローバル生物基礎＋生物』問題集を中心に演習を行います。

※知識の定着をはかるため、授業時に小テストがあります。

※3 年次に合同授業になるため、2 年次のスタンダードクラスとハイレベルクラスは別授業ですが内容は同一です。

2. アドバイス

生物は生物基礎よりも大変難しいうえ、量も約3倍多いです。高校1年生と同じ学習方法では学習が間に合いません。定期考査の範囲も昨年より2倍以上多くなりますので、日頃から本気で学習に取り組んでください。

また、昨年学習した生物基礎の内容の復習も行います。「忘れてしまった」で終わりにせず、各自で授業プリントや『リード Light 生物基礎』問題集を用いて復習をしてください。生物基礎の内容も考査範囲に入ります。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点(小テスト・課題・実験レポート)

4. 學習指導計畫

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄	
1学期中間考査	1編 生命現象と物質	4-17	生体物質と細胞	生体の構成・個体・細胞・分子 タンパク質の構造と性質 酵素のはたらき	生体の構成物質とその特徴 アミノ酸の構造 タンパク質の立体構造と機能 酵素のはたらきと性質 補酵素のはたらき フィードバック調節 酵素の実験	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
			細胞の構造とはたらき	原核細胞と真核細胞 細胞小器官のはたらき	☐ ☐		
		18-45	生命現象を支えるタンパク質	細胞の活動とタンパク質	生体膜の構造 選択的透過性 チャネルとポンプ 細胞間結合の種類と違い 細胞骨格の種類 モータータンパク質のはたらき 抗体の多様性 主要組織適合抗原による識別	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
		46-60	代謝とエネルギー	代謝とエネルギー 呼吸と発酵	異化と同化 ATPの構造と役割 呼吸のしくみ 乳酸発酵・アルコール発酵のしくみ 脂肪とタンパク質の分解経路 呼吸商の計算 アルコール発酵の実験 脱水素酵素の実験	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
		ニューグローバル	③-13	1章 生物の特徴	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
			86-95	5章 免疫	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
			152-153	8章 生体物質と細胞	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
			167-168	9章 生命現象を支えるタンパク質	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
			183-184	10章 代謝とエネルギー	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐

1 学期 期末 考查	1編 生命現象と物質	61-82	代謝とエネルギー	炭酸同化 窒素同化	光の波長と光合成色素 光合成のしくみ 光合成曲線と限定要因 C ₃ 植物、C ₄ 植物、CAM 植物 光合成細菌の光合成 化学合成 窒素同化のしくみ 生態系における窒素の循環	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	2編 遺伝子のはたらき	83-107	遺伝情報の発現	DNAの構造と複製 遺伝情報の発現	DNAの構造 半保存的複製 RNAの構造 真核細胞のタンパク質合成 原核細胞のタンパク質合成 突然変異の種類 ヒトの代謝異常 一遺伝子一酵素説	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		108-115	遺伝子の発現調節	遺伝子の発現調節	原核生物の転写調節のしくみ 真核生物の転写調節のしくみ	☐ ☐
	ニュー グロー バル	22-37	2 章 遺伝子とそのは たらき	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		205-206	11 章 遺伝情報の発 現	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		224-225	12 章 遺伝子の発現 調節	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
	夏 休 み		課題: 1学期の復習			

2学期中間考査	3編 生殖と発生	140-155	生物の生殖と配偶子の形成	遺伝子と染色体	染色体の構成	☐
					性決定の様式	☐
					有性生殖と無性生殖	☐
				減数分裂と遺伝情報の分配	減数分裂の過程	☐
				遺伝子の多様な組合せ	連鎖と組換え・組換え価	☐
					受精による子の遺伝子の組み合わせ	☐
		156-169	動物の発生	動物の配偶子形成と受精	動物の配偶子形成の過程	☐
					受精時の反応と多精拒否のしくみ	☐
				初期発生の過程	卵の種類と卵割	☐
					ウニの発生過程	☐
					カエルの発生過程	☐
					胚葉からの分化	☐
	ニューグローバル	170-181	動物の発生のしくみ	細胞の分化と形態形成	中胚葉誘導と神経誘導	☐
					誘導の連鎖	☐
					原基分布図	☐
					シュペーマンの交換移植実験	☐
					ES細胞・iPS細胞	☐
		188-212	植物の発生	植物の発生	被子植物の配偶子形成と重複受精	☐
					ABCモデル	☐
	ニューグローバル	52-59	3章 体内環境	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		66-79	4章 体内環境の調節	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		251-252	14章 生殖と配偶子形成	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		262-263	15章 動物の発生	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		274-275	16章 動物の発生のしくみ	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		292-293	17章 植物の発生	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐

2学期期末考査	4編 生物の環境応答	213-247	動物の刺激の受容と反応	ニューロンとその興奮	刺激の受容から反応の過程 ニューロンの構造 活動電位の発生のしくみ 全か無かの法則 伝導と伝達 神経伝達物質 ヒトの眼の構造 明暗調節・遠近調節のしくみ 視覚経路と視交さ ヒトの耳の構造 ヒトの眼・耳以外の受容器 脳の構造とはたらき 脊髄の構造とはたらき 神経系の構成 反射時の興奮の伝達経路 筋肉の構造と収縮のしくみ 筋肉以外の効果器	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
---------	---------------	---------	-------------	------------	--	--

3学期学年末考査	4編 生物の環境応答	10-11	生命現象を支えるタンパク質	細胞の活動とタンパク質	動物細胞と浸透	☐
		262-302	植物の環境応答	植物の成長と植物ホルモン	植物細胞と浸透	☐
					屈性と傾性	☐
					成長運動と膨圧運動	☐
					植物ホルモンの種類とはたらき	☐
				花芽形成と発芽の調節	花芽形成のしくみ	☐
					フロリゲンの性質	☐
					種子の休眠と発芽のしくみ	☐
					種子の発芽と光の関係	☐
	5編 生態と環境	308-333	個体群と生物群集	個体群	個体群の成長と成長曲線	☐
					密度効果	☐
					年齢ピラミッドと生存曲線	☐
				個体群内の個体間の関係	同種個体群間の関係	☐
					異種個体群間の関係	☐
		334-343	生態系の物質生産とエネルギーの流れ	異種個体群間の関係	生態的地位と資源の分割	☐
				生物群集	生産構造図	☐
					生態系における物質収支・物質生産・エネルギーの流れ	☐
		344-372	生態系と生物多様性	生態系における物質生産	生物多様性の階層	☐
				生態系と生物多様性	かく乱の規模と生物多様性	☐
	ニューグローバル	104-117	6章 植生の多様性と分布	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		124-141	7章 生態系のバランスと保全	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		330-331	20章 植物の環境応答	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		348-349	21章 個体群と生物群集	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		362-363	22章 生態系と生物多様性	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
春休み			課題:これまでの復習 講習:生物基礎の入試演習			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 5～7 組	教科	理科	科目	化学
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	気体や液体の動態を数理的思考で理解・記述する。				
教材	『新版化学』 実教出版				
副教材等	【必携】『アクセスノート化学』 実教出版 【あると便利なもの】『新版化学基礎』 実教出版 ※昨年度配布の教科書				

1. 学習内容

化学基礎に引き続いての学習となります。より発展的な内容について学びます。

1 学期の学習内容は無機化合物と有機化合物です。さまざまな化合物の性質や製法を理解することが中心となりますので、きちんと暗記し整理していくことが不可欠です。

2 学期は芳香族有機化合物および気体・溶液のふるまいについて学習します。特に気体・溶液は、数式で理解をしていかなければならない分野です。分数や桁数の多い小数の計算をスピーディに行えなければなりません。授業を受ける前提として、高い計算能力を身につけていたいものです。

3 学期は熱化学・反応速度・化学平衡を学習します。特に文字式を多用することが多く、文字で表されたものでもすぐに頭の中でイメージができるようになることが要求されます。

単位数も多く、油断するとすぐに理解できなくなります。毎日復習をすることが必要です。ハイレベルクラスは入試問題にも取り組む予定です。

2. アドバイス

- ・授業に集中して参加すること。
- ・きちんと板書し、後に自分が利用できるノートをつくること。
- ・口頭でなされた説明もノートにメモする習慣をつけること。
- ・暗記すべき事がらをしっかり暗記すること。
- ・問題を解くときは、図表にあらわして理解する習慣をつけること。
- ・出される課題、指示された小テストにしっかり取り組むこと。
- ・必ず復習を行うこと。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点(小テスト・課題・ノート提出・出席)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	無機物質	130-149	非金属元素	元素の分類と周期表 非金属元素	・周期表に基づいた元素の分類ができる。 ・非金属元素の単体、化合物の性質と特徴が分かる。	☐ ☐
		150-180	金属元素(Ⅰ) 金属元素(Ⅱ)	典型金属元素 遷移金属元素	・典型金属元素の単体、化合物の性質・特徴が分かる。 ・遷移金属元素の単体その化合物の性質・特徴が分かる。 ・錯イオンの構造を理解し、名称や化学式を書くことができる。 ・金属イオンの分離・確認ができる。	☐ ☐ ☐ ☐
1学期期末考査	有機化合物	182-189	有機化合物の特徴と分類	有機化合物の分析 飽和・不飽和炭化水素	・元素分析から分子式の決定ができる。 ・炭化水素の構造と性質がわかる。	☐ ☐
		190-199 200-217	脂肪族炭化水素 アルコールと関連化合物	アルコールとその誘導体 カルボン酸とエステル	・異性体を理解し、過不足なく示すことができる。 ・アルコールおよびその誘導体の構造と性質が分かる。 ・アルコールの酸化反応を理解することができる。 ・カルボン酸およびエステルの構造と性質がわかる。 ・エステル化反応を理解することができる。 ・油脂の構造が分かり、計算問題を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
夏休み			各自でも復習を行う 重点項目： 周期表・ハロゲンの酸化力・硫化水素・硫酸・硝酸・アンモニア アルカリ金属・アルカリ土類金属・両性元素・錯イオン・金属の分類 元素分析・異性体・付加反応・アルコールの酸化・ヨードホルム反応 エステル化・油脂・けん化			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
2学期中間考査	有機化合物・物質の状態	218-240	芳香族化合物	芳香族炭化水素	・ベンゼンの構造と性質・反応が分かる。	☐
				含酸素芳香族化合物	・フェノール類や芳香族カルボン酸の構造と性質・反応が分かる。	☐
				含窒素芳香族化合物	・アニリンの構造と性質・反応が分かる。	☐
				有機化合物の分離	・有機化合物の混合物を分離するしくみが分かる。	☐
		32-39	粒子の結合と結晶の構造	イオン結合	・イオン結合のしくみが分かる。	☐
				共有結合	・共有結合のしくみが分かり、構造式が書ける。	☐
				金属結合と金属結晶	・結晶格子の計算問題が解ける。	☐
2学期期末考査	物質の状態	8-19	物質の三態と状態変化	状態変化とエネルギー	・物質の三態をエネルギーの側面からとらえることができる。	☐
		20-31	気体	気体の状態方程式	・ボイル・シャルルの法則を理解し、計算に応用することができる。	☐
					・気体の状態方程式を理解し、計算に応用することができる。	☐
		40-64	溶液	溶解度	・溶解度に関する計算問題を解くことができる。	☐
					・ヘンリーの法則を理解し、計算に応用することができる。	☐
				希薄溶液の性質	・蒸気圧降下のしくみを理解することができる。	☐
				コロイド溶液	・コロイド粒子の動態を理解することができる。	☐
冬休み			各自でも復習を行う 重点項目： 芳香族置換反応・異性体・フェノール合成ルート・サリチル酸合成ルート アニリン合成ルート・水溶性と難溶性 イオン結合・共有結合・結晶格子・気体の状態方程式・溶解度・浸透圧 蒸気圧降下・コロイド			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
3 学期 学 年 末	物質 の 変 化	66-79	化学反応とエネルギー	熱化学	・反応熱の出入りを熱化学方程式で表すことができる。	☐
		92-101	化学反応の速さとしくみ	反応速度	・反応熱や結合エネルギーをエネルギー図で理解することができる。 ・反応速度を支配する要因が何であるかが分かる。	☐ ☐
		102-128	化学平衡	化学平衡	・反応速度を求め、反応速度式で表すことができる。 ・ルシャトリエの法則を理解することができる。 ・平衡の様子を平衡定数Kを用いて記述することができる。 ・平衡をテーマとした各種計算問題を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐
春 休 み			春期講習:2年次の復習と演習 各自でも復習を行う 重点項目: 熱化学方程式・反応速度・ルシャトリエの法則 濃度平衡・圧平衡・電離平衡・緩衝液・塩の加水分解			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 5～7 組 理コース	教科	理科	科目	物理
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	物理学が過去の欧米での研究により発展してきた過程と結びつけながら、授業の内容を理解する。				
教材	『総合物理 ¹ 』 数研出版 『総合物理 ² 』 数研出版				
副教材等	【必携】『センサー総合物理 新訂版』 啓林館				

1. 学習内容

第1編の力学分野では物理基礎で学んだ定理や法則を利用して様々な物体の運動について学んでいく。相対速度、力のモーメント、運動量と力積、慣性力、円運動、単振動、万有引力等を中心に学ぶ。

第2編の熱力学では熱量、ボイルシャルルの法則、気体の状態方程式、内部エネルギー、熱力学第一法則、熱機関を学ぶ。

第3編の波では物理基礎で学んだ波の基本性質を利用し、ドップラー効果、レンズ、光の干渉を中心に学んでいく。

第4編の電磁気は、2 年次では電気分野のみ扱い、磁力による磁場（ローレンツ力、電磁誘導、交流回路）は 3 年次に学習する。静電気の存在から電気力（静電気力）を基本として、そこから電気回路を学ぶ。

今年度を使って共通テスト「物理」の試験範囲のうち、8 割ほどが終了する。かなり盛りだくさんな内容であるため、宿題や小テストを利用して、復習を適宜入れつつ進めていく。

2. アドバイス

我々の身の回りには多種多様の自然現象があり、その法則を理解するのが物理です。重要な法則を理解するためにも問題演習を数多く解き、考え方を深めることを望みます。そのためには副教材の問題集を復習し、前回の授業を確実に身につけられるよう努力しましょう。少し時間がかかりますが、是非復習にしっかり取り組んで欲しいと思います。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点（小テスト・課題・出席）

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	運動の法則 運動量の保存	8-9	変位	平面内の変位、速度	ベクトルを用いて、物体の位置、速度を表すことができる	☐
		36-43	落体の運動	水平投射 斜方投射	水平投射運動を解析できる 斜方投射運動を解析できる	☐ ☐
		78	空気抵抗	空気抵抗、終端速度	空気抵抗を受けた時の運動がわかる	☐
		79-90	剛体にはたらく力のつりあい	剛体にはたらく力 力のモーメント 剛体のつりあい 剛体にはたらく力の合力 重心	大きさのある物体の運動を理解する 力のモーメントを式を含め理解する つりあいの式を立て、剛体が動かないための条件をつくること 物体の重心の座標を求められる	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		115-119	運動量と力積	運動量、力積	運動量、力積を理解する	☐
		120-125	運動量保存則	運動量保存則 物体の分裂	運動量保存則を立て、それを利用し 衝突、分裂、合体について解析する	☐ ☐
		126-133	反発係数	物体の各種衝突 運動量とエネルギーの関係	反発係数を理解し、弾性衝突、非弾性衝突それぞれを解析できる 運動量とエネルギーの関係がわかる	☐ ☐
1学期期末考査	円運動と万有引力	134-139	等速円運動	角速度、周期、回転数 等速円運動の加速度 向心力	角速度について理解する 円運動するときの加速度を理解する 円運動の運動方程式を立てられる	☐ ☐ ☐
		140-146	慣性力	慣性力・遠心力	慣性力・遠心力を理解する	☐
		147-155	単振動	単振動 変位、速度、加速度 単振動に必要な力 ばね振り子 単振り子 惑星の運動	単振動の動きを理解し、その運動を解析することができる 復元力を求めることにより単振動の周期を導き出すことができる 単振り子について理解する ケプラーの法則について理解する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		156-166	万有引力	万有引力 重力 万有引力による位置エネルギー 万有引力を受ける物体の運動	万有引力の法則を理解する 重力に関して万有引力から考える 位置エネルギーを理解し、エネルギー保存則が立てられる 等速円運動、楕円運動それぞれの衛星の運動を解析することができる	☐ ☐ ☐ ☐
夏休み			夏期講習： なし 宿題： 1 学期、および 1 年次物理基礎の復習			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	熱と物質 気体のエネルギーと状態変化	182-186	熱と熱量	温度、熱量、熱容量、比熱、熱量の保存	温度について意味を理解する 熱量の保存について理解する	☐
		187-189	熱と物質の状態	物質の三態 熱膨張	融解熱や蒸発熱の潜熱が状態変化に必要であるとわかる	☐
		190-191	熱と仕事	熱と仕事の関係	ジュールの実験から熱と仕事の関係を理解する。	☐
		192-197	気体の法則	気体の圧力 ボイルシャルルの法則 気体の状態方程式	気体の圧力を算出できる ボイルシャルルの法則を利用できる 気体の状態方程式が立式できる	☐ ☐ ☐
		198-202	気体分子の運動	分子運動と圧力、平均運動エネルギー、絶対温度	気体の分子運動から気体の内部エネルギーを求められる	☐
		203-212	気体の状態変化	内部エネルギー 熱力学第一法則 気体の変化、モル比熱	内部エネルギー、仕事、熱量から熱力学第一法則を理解する 定積、定圧、等温、断熱変化について解析できる	☐ ☐
		213-219	不可逆変化と熱機関	不可逆変化 熱機関と熱効率	熱機関・熱効率についてわかる	☐
2学期期末考査	波の性質 音 光	12-17	正弦波の式	正弦波の式	任意のx、tでの正弦波の式を立てる	☐
		28-34	波の波面、干渉、反射、屈折	ホイヘンスの原理 波の干渉 屈折の法則、波の回折	ホイヘンスの原理について理解し、波の干渉、回折、屈折、反射等の現象を解析できる	☐
		52-59	ドップラー効果	音源が動く場合 観測者が動く場合 音源と観測者が動く場合	ドップラー効果について理解する ドップラー効果が起きる際の式を立て、変化した振動数を求められる	☐ ☐
		60-70	光の性質	光とその性質 光の反射、屈折、全反射 光の分散、散乱、偏光	光とは何かを理解する 光の速さの求め方を理解する 屈折の法則から、全反射を理解する 光の特徴から一般的な光の事象を理解することができる	☐ ☐ ☐ ☐
		71-81	レンズ	凸レンズ・凹レンズ 球面鏡	レンズの式を学び像の位置を求める 球面鏡の像、式を理解する	☐ ☐
		82-92	光の干渉と回折	ヤングの実験 回折格子 薄膜による干渉 くさび形空気層の干渉 ニュートンリング	光の干渉による明暗を視覚的に確認するとともに光路差を求めて干渉条件を立てることができる	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
冬休み			冬期講習： 1・2学期、および 1 年次物理基礎の復習（共通テストレベル） 宿題：1・2学期の復習			
3 学期学年末 考査	電場 電流	104-109	静電気力	静電気、帯電、 静電誘導、誘電分極 クーロンの法則	静電気の発生をもとに箔検電器等実 験で帯電のしくみを視覚的にとらえる 静電気力を求められる	☐
		110-114	電場	電場、電気力線 ガウスの法則	電場について理解する 電気力線の本数を導き出せる	☐
		115-123	電位	電位、電位差と仕事、等 電位面、一様な電場	電位を理解し等電位面を描ける	☐
		124-126	物質と電場	導体と電場 不導体と電場	導体、不導体内の電場についても理 解する	☐
		127-138	コンデンサー	コンデンサーの充電、電 気容量、誘電体の挿入、 コンデンサーの接続方法	コンデンサーの充電のしくみを理解す る 直列、並列つなぎを解析できる	☐
		140-147	オームの法則	オームの法則、抵抗率、 電力量と電力	オームの法則を導ける 電力量、電力が計算できる	☐
			直流回路	抵抗の接続 キルヒホッフの法則	直列、並列回路について解析できる 複雑な回路をキルヒホッフの法則を 用いて解析できる	☐
春休み			春期講習： 1・2学期、および 1 年次物理基礎の復習（共通テストレベル） 宿題： 特になし			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 5～7 組	教科	理科	科目	生物(選択)
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	世界の最先端の学問について触れることにより、研究の実際を理解する。				
教材	『生物』東京書籍				
副教材等	【必携】『改訂版 フォトサイエンス生物図録』数研出版 【必携】生物基礎の授業プリントすべて 『改訂版 リード Light ノート生物』数研出版 『ニューグローバル生物基礎＋生物』東京書籍 問題演習用のノート 1 冊(昨年度続きでよい)				

1. 学習内容

1 年次の生物基礎(必修)に引き続き、2 年次の生物(選択)、および 3 年次の生物演習(選択)を学習すれば、理系の生物受験に対応できるように計画しています。

2 年次の生物の授業では、生物の学習および生物基礎の復習を行います。生物は内容が非常に多いため、3 年次の生物演習で学習が終わります。生物の内容は、生物基礎を土台とした応用、発展的内容です。生物基礎の内容がきちんと理解されていないと、生物の内容を理解することはできません。

生物の学習は授業プリントおよび『リード Light ノート生物』問題集を中心に学習をし、生物基礎の復習は『ニューグローバル生物基礎＋生物』問題集を中心に演習を行います。

※知識の定着をはかるため、授業時に小テストがあります。

※3 年次に合同授業になるため、2 年次のスタンダードクラスとハイレベルクラスは別授業ですが内容は同一です。

2. アドバイス

生物は生物基礎よりも大変難しいうえ、量も約3倍多いです。高校1年生と同じ学習方法では学習が間に合いません。定期考査の範囲も昨年より2倍以上多くなりますので、日頃から本気で学習に取り組んでください。

また、昨年学習した生物基礎の内容の復習も行います。「忘れてしまった」で終わりにせず、各自で授業プリントや『リード Light 生物基礎』問題集を用いて復習をしてください。生物基礎の内容も考査範囲に入ります。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点(小テスト・課題・実験レポート)

4. 學習指導計畫

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄	
1学期中間考査	1編 生命現象と物質	4-17	生体物質と細胞	生体の構成・個体・細胞・分子 タンパク質の構造と性質 酵素のはたらき	生体の構成物質とその特徴 アミノ酸の構造 タンパク質の立体構造と機能 酵素のはたらきと性質 補酵素のはたらき フィードバック調節 酵素の実験	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
			細胞の構造とはたらき	原核細胞と真核細胞 細胞小器官のはたらき	☐ ☐		
		18-45	生命現象を支えるタンパク質	細胞の活動とタンパク質	生体膜の構造 選択的透過性 チャネルとポンプ 細胞間結合の種類と違い 細胞骨格の種類 モータータンパク質のはたらき 抗体の多様性 主要組織適合抗原による識別	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
		46-60	代謝とエネルギー	代謝とエネルギー 呼吸と発酵	異化と同化 ATPの構造と役割 呼吸のしくみ 乳酸発酵・アルコール発酵のしくみ 脂肪とタンパク質の分解経路 呼吸商の計算 アルコール発酵の実験 脱水素酵素の実験	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
		ニューグローバル	③-13	1章 生物の特徴	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
			86-95	5章 免疫	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
			152-153	8章 生体物質と細胞	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
			167-168	9章 生命現象を支えるタンパク質	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
			183-184	10章 代謝とエネルギー	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐

1 学期 期末 考查	1編 生命現象と物質	61-82	代謝とエネルギー	炭酸同化 窒素同化	光の波長と光合成色素 光合成のしくみ 光合成曲線と限定要因 C ₃ 植物、C ₄ 植物、CAM 植物 光合成細菌の光合成 化学合成 窒素同化のしくみ 生態系における窒素の循環	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	2編 遺伝子のはたらき	83-107	遺伝情報の発現	DNAの構造と複製 遺伝情報の発現	DNAの構造 半保存的複製 RNAの構造 真核細胞のタンパク質合成 原核細胞のタンパク質合成 突然変異の種類 ヒトの代謝異常 一遺伝子一酵素説	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		108-115	遺伝子の発現調節	遺伝子の発現調節	原核生物の転写調節のしくみ 真核生物の転写調節のしくみ	☐ ☐
	ニュー グロー バル	22-37	2 章 遺伝子とそのは たらき	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		205-206	11 章 遺伝情報の発 現	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		224-225	12 章 遺伝子の発現 調節	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
	夏 休 み		課題: 1学期の復習			

2学期中間考査	3編 生殖と発生	140-155	生物の生殖と配偶子の形成	遺伝子と染色体	染色体の構成	☐
					性決定の様式	☐
					有性生殖と無性生殖	☐
				減数分裂と遺伝情報の分配	減数分裂の過程	☐
				遺伝子の多様な組合せ	連鎖と組換え・組換え価	☐
					受精による子の遺伝子の組み合わせ	☐
		156-169	動物の発生	動物の配偶子形成と受精	動物の配偶子形成の過程	☐
					受精時の反応と多精拒否のしくみ	☐
				初期発生の過程	卵の種類と卵割	☐
					ウニの発生過程	☐
					カエルの発生過程	☐
					胚葉からの分化	☐
	ニューグローバル	170-181	動物の発生のしくみ	細胞の分化と形態形成	中胚葉誘導と神経誘導	☐
					誘導の連鎖	☐
					原基分布図	☐
					シュペーマンの交換移植実験	☐
					ES細胞・iPS細胞	☐
		188-212	植物の発生	植物の発生	被子植物の配偶子形成と重複受精	☐
					ABCモデル	☐
	ニューグローバル	52-59	3章 体内環境	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		66-79	4章 体内環境の調節	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		251-252	14章 生殖と配偶子形成	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		262-263	15章 動物の発生	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		274-275	16章 動物の発生のしくみ	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		292-293	17章 植物の発生	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐

2学期期末考査	4編 生物の環境応答	213-247	動物の刺激の受容と反応	ニューロンとその興奮	刺激の受容から反応の過程 ニューロンの構造 活動電位の発生のしくみ 全か無かの法則 伝導と伝達 神経伝達物質 ヒトの眼の構造 明暗調節・遠近調節のしくみ 視覚経路と視交さ ヒトの耳の構造 ヒトの眼・耳以外の受容器 脳の構造とはたらき 脊髄の構造とはたらき 神経系の構成 反射時の興奮の伝達経路 筋肉の構造と収縮のしくみ 筋肉以外の効果器	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
				刺激の受容		☐	
				情報の統合		☐	
				刺激への反応		☐	
		248-261	動物の行動	動物の行動	生得的行動と学習による行動のしくみ	☐	
	ニューグローバル	304-305	18 章 動物の刺激の受容と反応	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐	
320		19 章 動物の行動	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐		
冬休み			課題:これまでの復習				

3学期学年末考査	4編 生物の環境応答	10-11	生命現象を支えるタンパク質	細胞の活動とタンパク質	動物細胞と浸透	☐
		262-302	植物の環境応答	植物の成長と植物ホルモン 花芽形成と発芽の調節	植物細胞と浸透 屈性と傾性 成長運動と膨圧運動 植物ホルモンの種類とはたらき 花芽形成のしくみ フロリゲンの性質 種子の休眠と発芽のしくみ 種子の発芽と光の関係	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	5編 生態と環境	308-333	個体群と生物群集	個体群	個体群の成長と成長曲線 密度効果 年齢ピラミッドと生存曲線	☐ ☐ ☐
		334-343	生態系の物質生産とエネルギーの流れ	個体群内の個体間の関係 異種個体群間の関係 生物群集	同種個体群間の関係 異種個体群間の関係 生態的地位と資源の分割 生産構造図 生態系における物質収支・物質生産・エネルギーの流れ	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		344-372	生態系と生物多様性	生態系における物質生産 生態系と生物多様性	生物多様性の階層 かく乱の規模と生物多様性 個体群絶滅の原因 生物多様性の保全	☐ ☐ ☐ ☐
	ニューグローバル	104-117	6章 植生の多様性と分布	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		124-141	7章 生態系のバランスと保全	基本問題	すべての問題を理解して解ける	☐
		330-331	20章 植物の環境応答	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		348-349	21章 個体群と生物群集	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
		362-363	22章 生態系と生物多様性	基礎チェック	すべての問題を理解して解ける	☐
春休み			課題:これまでの復習 講習:生物基礎の入試演習			

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～4 組	教科	芸術	科目	音楽Ⅱ(選択)
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	音楽への理解を深めると共に、音楽技能を発展させ表現力を向上させる。				
教材	高校生の音楽1・2(教育芸術社)				
副教材等	【あると便利なもの】 リコーダー(アルトが望ましい。中学や高校1年生の時に使っていたもの。)				

1. 学習内容

○ 表現

- (1) 歌唱…イタリア歌曲や日本歌曲を中心に、表現を工夫して歌う
- (2) 器楽…リコーダーによるアンサンブルを中心に、表現を工夫して演奏する
- (3) 創作…リズムをはじめとした音楽を形作る要素を感受し、音楽を創造する

○ 鑑賞

- ・ 音色の特徴
- ・ 歴史的背景、作曲者の特徴

2. アドバイス

○ 音楽を学校で学べる最終学年となるこの授業は、今まで以上に歌唱を中心としています。扱う内容は西洋歌曲や日本歌曲、ミュージカル、合唱曲など様々です。また2時限続きで時間的余裕もあることから発声練習、指導もより細かくなります。実技の要素が色濃くなりますので、何より積極的な参加が求められます。歌を得意分野にしていきましょう。

○ 他にも楽典で音楽知識を深めながら、リズム譜を使った創作活動も行います。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

実技試験(授業内)・筆記試験(授業内)・授業での取り組み・各種の提出物

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期	歌唱や器楽の表現を磨いて、全体で味わおう	音楽 1 28-29	イタリア歌曲 「カーロ ミオ ベン」	イタリア歌曲を通して発声のベルカント唱法について学び、日本歌曲でもそれを生かして歌う。各言語に沿った発音があることを知り、実践する。	豊かな発声法を身に付け、旋律を丁寧に歌える。 それぞれの国の言葉の美しさを大切にしながら、曲の背景に沿った歌い方ができる。	☐
		音楽 1 20-21	日本歌曲 「この道」			☐
			リコーダーアンサンブル	器楽表現	曲種に応じた表現を工夫して演奏する。アーティキュレーションを生かした奏法ができる。	☐
2学期	表現したいイメージを創作しよう・音楽の総合芸術を学ぼう		楽典と創作 クラッピングミュージックとボイスアンサンブル 「野菜の気持ち」	楽典についての知識を深める。それを生かして自分が表現したいイメージを音符とリズムによって創作する。	楽典の知識に基づいた正しい創作表現ができる。	☐
			鑑賞 ミュージカル「キャッツ」及び劇中歌「メモリー」	舞台芸術であるミュージカルの特徴を理解しながら鑑賞し、劇中歌を通して背景を理解する。	舞台設定や役を理解しながら歌うことで、発声表現の幅を広げる。	☐
		音楽 2 13-15	日本歌曲 「からたちの花」 「見あげてごらん夜の星を」	1学期に学んだ歌唱表現を用いながら、様々な歌曲を歌う。	それぞれの時代に合った歌唱表現ができる。	☐
3学期	発表してみよう		個人発表 合唱曲 「手紙 ～拝啓 十五の君へ～」	個人で設定したテーマについて調べ、発表することで理解を深める。	自らに適した楽曲を通して、社会と音楽の結び付きを学ぶ。	☐

令和 3 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 4～8 組	教科	芸術	科目	美術Ⅱ(選択)
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	様々な技法を習得するとともに感性を高め創造性を養う。				
教材	高校美術 2				
副教材等	美術セット				

1. 学習内容

これまでの経験を元に美術に関するより専門的な知識や技法を学習、実践する。

2. アドバイス

作業前に十分な説明をするが理解が不十分な場合は遠慮なく質問をすること。
一度完成したと感じてもそこで思考をやめず、どうすればより良くなるかを考えること。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

創意工夫を行い、最後まで仕上げること。
作品の他には授業に取り組む姿勢も参考とする。

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	絵画		静物デッサン	○単体の静物デッサン	鉛筆を正しく使う。 質感の違いを捉える。 構成を考える。	☐ ☐ ☐
1学期期末考査	絵画		水彩画	○静物の水彩画	構成を考える。 質感の違いを表現する。	☐ ☐
2学期中間考査	デザイン		「起業する」というテーマでのデザイン (マーク)	○ロゴマークの学習 ○ロゴマーク作成	会社を設立したならば、どのようなビジュアルで会社を宣伝していくか。 会社のイメージに合っているか。	☐ ☐
2学期期末考査	デザイン		「起業する」というテーマでのデザイン (ポスター)	○一つ前にデザインしたマークをデザインに含んだポスターの制作。 ○鑑賞	伝えたいものを明確に、デザイン・表現する。 ポスターから意図されていることを読み解く。	☐ ☐
3学期学年末考査	タックステンド		タックステンド	○タックステンドのデザイン ○制作	構成を工夫する。 丁寧に作品を作り上げる。	☐ ☐

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～4 組	教科	芸術	科目	書道Ⅱ(選択)
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	書道の創造的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、芸術書道について理解を深める。				
教材	光村図書 書Ⅱ				
副教材等	なし				

1. 学習内容

- 1.芸術としての書体(篆書、隸書、草書、行書、楷書)を学習します。
- 2.書Ⅰを基礎としてさらに「書」の多様性を学習します。
- 3.中国の古典を理解して繰り返し臨書し、様々な用筆法を習得します。
- 4.仮名古典の書の美を学習します。
- 5.学習のまとめとして書作品を創作します。

2. アドバイス

自分の好みに合った古典作品の臨書を積極的に行うことが、古典の美の格調を感じ、自分のスキルアップにもつながりますので、授業以外にも書く時間を多く持ってください。また、学書の目習いをするにより、観察眼を養ってください。

※目習いとは、スケッチをするように点画を目で追いながらよく観察することです。(『墨10月臨時増刊 読売書法会理事』芸術新聞社 1995年10月29頁)

良い作品を通して鑑賞眼を養い、文字に興味をもって、造形美を追求してください。書道展や友達の作品を鑑賞することも自身の学びになりますので、積極的に行うと良いでしょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・課題作品
- ・授業態度
- ・出欠

その他(忘れ物に気をつけること。片付けの際の水道の使い方や道具の管理が出来ているかも見ます。)

4. 學習指導計畫

[illegible]

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	漢字の書の学習	26-31	草書の学習	様々な草書 十七帖の鑑賞と臨書 書譜の鑑賞と臨書	草書の成立・種類・特徴を知る 十七帖を鑑賞し、特徴を知り臨書する 書譜を鑑賞し、特徴を知り臨書する	☐ ☐ ☐
		32-37	行書の学習	様々な行書 集王聖教序の鑑賞と臨書 温泉銘の鑑賞と臨書 祭姪稿の鑑賞と臨書	集王聖教序を鑑賞する 集王聖教序の特徴を知り臨書する 温泉銘を鑑賞する 温泉銘の特徴を知り臨書する 祭姪稿を鑑賞する 祭姪稿の特徴を知り臨書する 臨書作品を自己評価する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		38-43	楷書の学習	様々な楷書 薦季直表の鑑賞と臨書 始平公造像記の鑑賞と臨書	楷書の成立・種類・特徴を知る 薦季直表を鑑賞する 薦季直表の特徴を知り臨書する 始平公造像記を鑑賞する 始平公造像記の特徴を知り臨書する 臨書作品を自己評価する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2学期期末考査	漢字の書の学習					

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	仮名の鑑賞及び臨書 漢字仮名交じりの書の学習	52-71	仮名の書の学習	いろいろな仮名 仮名の単体と連綿 高野切第一種の鑑賞と臨書	仮名の成立・種類・作者を学ぶ 単体や連綿の用筆法を知る 手本を元に練習する 作品を自己評価する 高野切第一種を鑑賞・臨書する 仮名料紙で清書する 臨書した作品を自己評価する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		74-84	漢字かな交じり書の学習		漢字かな交じり書の作品を創作する	☐

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～4 組	教科	芸術	科目	工芸Ⅱ（選択）
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	工芸Ⅰで習得した技と経験を活かし、より高度な工芸作品の制作をしながら、 伝統工芸の歴史や技術の継承、デザインについて理解を深める				
教材	籐素材、スタイロフォーム、タイル・モザイク、				
副教材等	【必携】教科書、プロジェクトペーパー（図面用）、筆記用具、定規、色鉛筆 【あると便利なもの】カッターナイフ				

1. 学習内容

伝統工芸品の種類や産地を学び、どうやってそれらが誕生し、今継承されているのか、鑑賞の観点から学ぶ。また、プロダクトデザインや空間デザインについて知り、デザインが社会の中で成立していく課程について考える。

制作意図と造形の結びつきを明確にし、与えられた部材から、制作したい物を図案化し、三面図を制作する。図面を見ながら制作し、全体の作業工程、要する時間を自分で管理しながら期日までの完成を目指す。

出来上がった作品を互いに鑑賞しながら、批評と客観的視野、自己評価を行い、プレゼンテーションの技術を身につける。

2. アドバイス

工芸作品は「実用性」はもちろん、芸術作品としての審美的視点にも耐えうることが重要で、「芸術点」の側面からも評価される。どちらかに偏った作品にならないよう、バランスをとりたい。

長い工程のため、自己管理が重要である。中だるみ、集中力低下は多くの工具を扱う工芸では怪我を生みやすい。特に刃物類など危険物を扱う場合は、手元に注意して行う。

他者の作品、優れた人の技を間近に見るのは大きな手本となるので、意匠デザイン、オリジナリティ以外の技の面の真似はおおいに薦めたい。

細部にこだわりすぎて全体を見ることができないと完成作品のバランスが取れず、時間もなくなる。まずは大きく作り出し、次第に細かな視点で細部を作業するめりはりが必要となる。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

出席と授業態度、困難にチャレンジする姿勢、また他者を助ける、手伝う姿勢、清掃などの態度の面も評価する。作品は実用性と芸術性の2観点から評価し、態度、出席を総合して評価。学校の道具を破損したり、他学年、他者の作品を損壊することに対し、厳しい評価を行う。

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期	伝統工芸、デザインの理解 籐工芸制作		建築を含む芸術作品や、デザインについて紹介。	さまざまな作品から、デザインと工芸・伝統工芸の現在について考える。	デザインを経て作品が制作されていく工程を知ること、目的を持ったものの作りを目指せるようにしたい。	☐
			籐工芸で籠を制作。	日本の伝統工芸の一つ、籐工芸で籠を制作する。 ベーシックな籐工芸の縦横織りの技法基本から発展させて、作りたい形を実現させる。	籐の素材の特質と、基本的な制作方法を知るために、まず小品を制作し、経験をもとに作品を構想し、自分なりのやり方を獲得しながら制作する。 素材から発想するデザインを体験し、理想とする形を目指して作品を完成させる。	☐
						☐
2学期	キャラクターの制作		二次元キャラクターを作画し、それを3D化させる。	架空のPRの活動を想定して、制作意図をまとめ、二次元のキャラクターを創造・作画する。 イラストからキャラクターの性格を表現するポーズを考え、立面、側面図を制作した上で、スタイロフォームで立体造形する。 アクリル絵の具などで彩色して仕上げる。	作品の形、色などすべてが、必然の表現になるように、制作の意図を理論的にまとめる。 三次元化することを通じて、平面と空間の違いを認識し、造形に反映させる。 キャラクターとして生命力が感じられ、なおかつしっかりと自立する造形を行う。	☐
						☐
						☐
3学期	タイル・モザイク制作		タイル・モザイクで鍋敷きを制作	色タイルを用いて、幾何学模様の鍋敷きをデザインし、制作していく。	タイルという素材の性質を理解し、日常生活の場面にどのようなレイアウトをするか予想してデザインする。 限られた色の組み合わせや、素材の制限の中から図柄のデザインを考案する。 作品の工程管理を正しく行い、制作の順番を工夫して、時間内に作業を終えるようにする	☐
						☐
						☐

2021年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～7 組	教科	保健体育	科目	体育
				単位数	3
「学び」の 目標とねらい	運動技能をさらに高め、運動を通じて楽しさや喜びを仲間と分かち合い、 周囲と協力して運営・実践していく能力を身につけることを目指す。				
教材	ステップアップ体育スポーツ2020（大修館）				
副教材等					

1. 学習内容

○種目については、施設と時間割の関係で決定します。

- ・集団行動
- ・新体力テスト
- ・体力づくり運動
- ・器械運動（マット運動・跳び箱運動）
- ・陸上（走「短距離・ハードル・持久走」跳「走り高跳び」）
- ・水泳（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ・個人メドレー）→1学期を予定
- ・球技（バレーボール・バスケットボール・サッカー・卓球・バドミントン）
- ・ダンス
- ・体育理論

2. アドバイス

高校2年生では、基本的体力も身につけ始めているので、その向上に努め、得手・不得手の意識を持たずに、どのような種目に対しても楽しく積極的に取り組むことが大切です。各自で自分にあった目標を持って、それが達成できるようにします。自分でそれを乗り越えられた達成感をしっかりと体験できるように努力しましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・実技試験
- ・授業へ取り組む姿勢や態度
- ・その他（見学が多い場合には課題）

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期	集団行動	324	整列隊形 ・4列横隊 ・姿勢・礼・整頓 ・行進	集団行動の意味を理解し、積極的に行動することによって能率的で安全に行えるよう基本動作を身につける。	・主な行動様式を身につけた ・迅速で的確に行動できた。 ・お互いに協力し、自己責任を果たせた。 ・リーダーに従い、安全に行動することができた。	☐ ☐ ☐ ☐
	体操(体力づくり)	5	・体力を高める運動 ・体ほぐし ・新体力テスト	体力の向上を目指し、どのような種目であっても取り組めるようにする。 体力テスト。	・運動に必要な体力と専門的運動能力を高め、実践できた。 ・自分の体力診断を理解し、取り組めた。	☐ ☐
通 年	陸上競技	60 74	走種目 ・短距離走 ・中・長距離走 跳種目 ・走高跳び はさみ跳び ベリーロール	STEP:A 走跳の基本的特性に触れ、運動体感を通して楽しさを体験する。 STEP:B それぞれの技能を上達させ、記録向上を目指す。 STEP:C 感覚だけでなく、理論的にも技術を理解し、完成度の高い技能を習得する。	・スタートのフォームチェック。 ・腕を素早く振ること。 ・キックした足のかかとをお尻に引きつける。 ・遠心力を使って飛べる。 ・大きな空中姿勢が出来る。 ・安全に着地できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	体操(器械運動)	29	マット運動 跳び箱	STEP:A 基本技能の習得 STEP:B 基本技能の習熟と発展 STEP:C 高度な技への挑戦	・STEP A・B・Cと基礎技の位置づけ(技の系統性、発展性の関係を理解)を理解し、自分にあった技を選び練習ができた。 ・自分が出来る技の数を増やせた。 ・できた技の質を高めることができた。 ・技の組合せ上の原則や注意点を理解し、連続技の練習ができた。 ・演技構成とその連続技の練習ができた。	☐ ☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
通 年	水 泳	85	クロール	STEP:A 水泳の基礎・基本となる技能を学習し、クロール・平泳ぎである程度長い距離を泳げるようにする。	クロール ・呼吸法が難しいため、基本的フォームが出来たか。	☐
			平泳ぎ	STEP:B 各種泳法の技能を高め、個人メドレーができるようにする。	平泳ぎ ・キックとバランスが難しいため、基本的フォームが出来たか。	☐
			背泳ぎ	STEP:C 得意種目の強化を図るとともに、横泳ぎ、立ち泳ぎ、簡易水球などを通して総合的な水泳能力の向上を図る。	背泳ぎ ・呼吸法は楽だが、力が入ると浮かないため、基本的フォームが出来たか。	☐
			バタフライ		バタフライ ・呼吸法が難しくタイミングが難しいため、基本的フォームが出来たか。	☐
		100	ターン 個人メドレー		ターン、個人メドレー ・クイックターンから4種メドレーが出来たか。	☐
	球 技 (ゴール型・ネット型)	102	バスケットボール	STEP:A 球技の基礎・基本となる技能を学習し、学習の進め方、行い方を楽しみながら学習する。	ボールの特性や道具、体力に合わせて基本的技能を身に付ける。	☐
		124	ハンドボール	STEP:B 各種目の個人技能を高め、工夫を加えて楽しさを深められるようにする。	技能が高まることにより、それに応じた学習を考えながら取り組む。	☐
		142	サッカー	STEP:C 各種目の技能を高めながらチームとして協力しながら作戦を工夫し、相手とのマナーやルールを守る態度を養う。	安全にゲームが楽しめるようにできているか、確認しながら取り組むことができる。	☐
		162	バレーボール			
		198	卓球			
		212	バドミントン			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
通 年	ダンス	279	リズムダンス 創作ダンス	STEP:A イメージやアイデアを生かして運動表現が出来るように発展させていく。 STEP:B みんなの協力で創意工夫してダンスを完成させて発表する。	・自分たちの踊りや表現が見ている人にも体の表現として伝わっているのか。 ・みんながリズムにのせて特徴的なダンスを計画して踊り、安全に最後まで取り組めているか。	☐ ☐
	体育理論	116	効果的な運動技能を高め方 運動スポーツでの戦術 運動スポーツの文化的特徴	体育スポーツの種目ごとにあるルールと運動技能について学ぶ。 オリンピックなどスポーツとの関わり方	・理解できた効果的技能を実践できたか。 ・技や戦術を実践できたか。 ・スポーツに対するとらえ方を理解できたか。	☐ ☐ ☐
		136	運動スポーツの学び方	メンタルトレーニング 体カトレーニング	・ルールや技術向上は、もちろん、効果的に力を発揮するのに運動技能とコントロールが理解できたか。	☐
		158	豊かなスポーツライフの設計	生涯スポーツとしての考え方		

2021年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～7組	教科	保健体育	科目	保健
				単位数	1
「学び」の 目標とねらい	思春期から中高年期までの健康に関わることがらについて学び、 そのために私たちは保健医療・制度をはじめ、どう社会へ貢献したらよいかを考える。				
教材	現代高等保健体育改訂版(大修館)				
副教材等	【必携】 図説 現代保健(大修館) ノート				

1. 学習内容

私たちの心と体は、年齢とともに変化していきます。また、健康のために私たちや社会がすべきことも、それに伴って変化していること知り、思春期から中高年期までの健康に関わる事柄や、それぞれの段階で必要になる保健・医療サービスの活用の仕方について理解する。私たちが健康に生きていくうえでは、私たちを取り巻く自然環境、社会の制度や活動などが深くかかわっており、それらのものと個人の努力とが組み合わさって健康が実現することを知り、健康に関連する環境・食品の問題や働くことと健康との関係について理解する。

2. アドバイス

個人の努力だけでなく、社会の一員として地球規模で健康問題を考える意識が必要である。そのため、常に新聞やニュース、インターネットなどで情報を集め、健康的な生活習慣を身につけたり、生活環境を守るための知識と能力を高めたり、また、生涯スポーツに向けて運動技能を高めたりして、適切な意志決定や行動選択を実践していくこと。
また、学習を実施するうえでは、事前に学習するページを読んでおくこと。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

期末、学年末期考査 ・ ノート提出 ・ 授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期学期末考査	生涯を通じる健康	64-65	1 思春期と健康	・思春期の体と健康 ・思春期の心と健康	・思春期における体の発達の 特徴や行動面・心理面の特徴 が説明できるようにする。	☐
		66-67	2 性意識と性行動の選 択	・性意識の男女差と性的 欲求 ・性に関する情報と性行 動	・性に関する情報が性行動の 選択におよぼす影響について、 具体的な例をあげて学習する。	☐
		68-69	3 結婚生活と健康	・心身の発達と健康な結 婚生活 ・結婚生活と家族の健 康	・健康な結婚生活をいとなむた めの留意点を、心身の発達の 観点から説明できるようにす る。	☐
		70-71	4 妊娠・出産と健康	・受精・妊娠・出産 ・妊娠・出産期の健康の ために	・結婚生活が家族の健康づくりに どうかかわっているかを、説 明できるようにする。	☐
		72-73	5 家族計画と人工妊娠 中絶	・家族計画の意義 ・避妊法とその選択 ・人工妊娠中絶	・受精・妊娠・出産の過程が理 解できた。 ・避妊法を選択する際の留意 点を、男女それぞれの立場か ら理解できた。 ・人工妊娠中絶の条件、および 人工妊娠中絶が女性の心身に およぼす影響について説明で きるようにする。	☐ ☐ ☐
		74-75	6 加齢と健康	・加齢にともなう心身の 変化	・加齢にともなう心身の変化に ついて、形態、機能の両面から 説明できるようにする。	☐
		76-77	7 高齢者のための社会 的とりくみ	・中高年期を健やかにす ごすために ・高齢者の健康とその支 援	・中高年期を健やかに過ごすた めの留意点を学習できた。 ・高齢者の生活と健康に関する 現状とそれをふまえた健康課 題について学習した。 ・高齢社会に対応した保健・医 療・福祉の連携の意義と総合 的対策の必要性を学習した。	☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2 学期学年末考査	社会生活と健康	80-81	8. 保健制度とその活用	・保健行政と医療保険のしくみ ・保健サービスの活用	・保健行政の役割としくみについて考えるようになった。 ・保健サービスの内容とその活用法について学習できた。	☐ ☐
		82-83	9. 医療制度とその活用	・医療制度と医療保険のしくみ ・医療機関と医療保険サービスの活用	・わが国における医療保険のしくみを、大まかに理解できた。 ・医療費が支払われるしくみを、家族を例にして考えた。	☐ ☐
		84-85	10. 医薬品と健康	・医薬品の種類と使い方 ・医薬品の安全性のための対策	・医療機関の選び方について具体的に学習できた。 ・受診場面を想定して、サービスの活用を学んだ。	☐ ☐
		86-88	11. さまざまな保健活動や対策	・健康作りのための保健活動 ・民間機関の保健活動 ・国際機関の保健活動	ヘルスプロモーションの考え方が理解できた。 ・民間の保健活動が大きな成果を上げていることを知ることができた。 ・さまざまな国際機関が世界の人々全体の健康につながっていることを理解できた。	☐ ☐ ☐
		90-91	1. 大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康影響 ・気に関わる地球規模の問題	・大気汚染はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、理解できた。	☐
		92-93	2. 水質汚濁・土壌汚染と健康	・水質汚濁とその健康影響 ・水質汚濁とその健康影響 ・土壌汚濁とその健康影響 ・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわり	・水質汚濁、土壌汚染はどのようにおこり、どのように健康へと影響するかを理解できた。	☐
		94-97	3. 健康被害の防止と環境対策	・環境汚染の防止とその対策 ・産業廃棄物の処理と健康	・環境汚染の防止・改善への対策を考え、理解できた。	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3 学期 学年末 考查	社会生活と健康	98-99	4. 環境衛生活動のしくみと働き。	・ゴミの処理 ・上下水道の整備とし尿処理	・ゴミの分別とその処理、下水処理など大切にしていることを学んだ。	☐
		100-101	5. 食品衛生活動のしくみと働き	・食品の安全性 ・行政や製造、加工者による衛生管理	・食品の安全について問われている現在において、衛生管理のために行政および製造・生産者がおこなっている対策を理解できた。	☐
		102-103	6. 食品と環境の保健と私たち	・食品の安全と私たちの役割	・食品表示と安全性の情報について知ることができた。	☐
				・環境の保健と私たちの役割	・現在でもなくなる食中毒について理解できた。 ・商品の選択と環境の保健について知ることができた。 ・廃棄の仕方と循環型社会の推進について知り、3R について理解できた。	☐
		104-105	7. 働くことと健康	・働くことと健康のかかわり ・働き方と健康問題の変化	・働くことの意義や大切さを知ることができた。 ・昔と今では違う健康問題について知ることができた。	☐
		106-107	8. 労働災害と健康	・労働災害とその予防 ・安全管理と健康管理のしくみ	・職業別に起こりやすい労働災害や安全管理のしくみを理解できた。	☐
		108-109	9. 健康的な職業生活	・職場における取り組み ・日常生活における取り組み	・職場における健康的な体づくりを理解できた。	☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～7 組	教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	コミュニケーション英語Ⅰで習得したことを土台にし、様々な英語に触れることで自身の世界観を広げ、さらに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。自分が伝えたい情報や考えなどを的確に相手に伝えられる英語力を養います。				
教材	『LANDMARK English CommunicationⅡ』（啓林館）				
副教材等	【必携】 『予習ノート』、『総合英語 Evergreen』（いっずな書店） 『Evergreen 25 Lessons』（いっずな書店） 【副教材】 教科書準拠音声 CD				

1. 学習内容

英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養います。同時に、事物に関する紹介・対話・説明・物語文などを読み、未知語の意味を推測しながら情報や考えを理解し、論理展開をとらえる学習をします。

また、読み書きをした内容や学んだこと、経験したことに基づいて、その情報や自分の考えについて話し合い、意見交換をし、それを簡潔に英語で書き表す学習をし、その内容の口頭発表や紙面での発表をします。

社会問題・新聞記事などにも興味を広げ、探究学習との関連をもたせながら、背景知識を増やし、それらに関して自分の言葉そして英語でのアウトプットを目指します。

2. アドバイス

①授業前: 次回の授業で学習する内容の予習をする。

授業中: 予習の際に疑問に思った点や理解の足りない点などを補う。

授業後: 授業で学習した内容を復習する、ノートに再度まとめる。

②目・耳・口・手をフル活用して、自分の力で英語力を総合的に伸ばしていく努力をしましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

・定期考査 ・平常点(授業態度・宿題・課題・実技試験など)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	スポーツ・生き方 職業・日本文化	5-9	Preparatory Lesson	英文の展開パターンとディスコースマーカー	ディスコースマーカーの理解	☐
		10-19	Lesson 1 I'm the Strongest!	繰り返しを避けるための省略 過去完了進行形	本文内容理解 文法理解 一生懸命取り組んでいること についてエッセイを書く	☐ ☐ ☐
		20-31	Lesson 2 Tokyo's Seven-minute Miracle	強調のための倒置 ・形式目的語の it	本文内容理解 文法理解 日本が世界に対して誇れること について意見交換をする	☐ ☐ ☐
1学期期末考査	動物・外国 女性・生き方	32-43	Lesson 3 Saint Bernard Dogs	受動態の分詞構文 完了形の分詞構文	本文内容理解 文法理解 人間と親しい関係を築く動物 について情報交換をする	☐ ☐ ☐
		46-57	Lesson 4 Chanel's Style	SV+分詞/SVO+分詞 with を使った付帯状況	本文内容理解 文法理解 好きな革新的人物について エッセイを書く	☐ ☐ ☐
夏休み			●夏期講習 ●副読教材 ●その他, 授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	心理・科学	58-69	Lesson 5 Science of Love	同格の that 節 疑問詞+do you think~?	本文内容理解 文法理解 本文に出た学説の中で興味があるものとその理由について意見交換する	☐ ☐ ☐
	芸術・生き方	78-89	Lesson 6 Gaudi and His Messenger	関係副詞非限定用法 if 節を用いない仮定法	本文内容理解 文法理解 ガウディーと外尾氏についてエッセイを書く。	☐ ☐ ☐
2学期期末考査	戦争・平和	92-105	Lesson 7 Letters from a Battlefield	譲歩の複合関係詞 動名詞の意味上の主語	本文内容理解 文法理解 レッスン本文を読んだのエッセイを書く	☐ ☐ ☐
	環境・歴史	106-119	Lesson 8 Edo: A Sustainable Society	注意すべき関係代名詞の非限定用法 独立分詞構文	本文内容理解 文法理解 「もったいない」と思うものについて意見交換する	☐ ☐ ☐
冬休み			●冬期講習 ●その他, 授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	科学・生活	120-133	Lesson 9 AI and Our Future	as if[though]+仮定法 助動詞+have+過去分詞	本文内容理解 文法理解 AI の賛否について意見交換する	☐ ☐ ☐
	外国・国際社会	134-147	Lesson 10 Bhutan: A Happy Country	強調構文 副詞節中の<S+be>の省略	本文内容理解 文法理解 国民総幸福量を上げるための策についてエッセイを書く	☐ ☐ ☐
春休み			●春期講習			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～7 組	教科	外国語	科目	英語演習 I A
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	英文法のエッセンスを体系的に習得することで、英文を正しく理解する力や適切な英文を作り出す力を身につけます。				
教材	『総合英語 Evergreen English Grammar 25 Lessons Workbook』(いっずな書店)				
副教材等	『総合英語 Evergreen』(いっずな書店) 『総合英語 Evergreen English Grammar 25 Lessons』(いっずな書店) ※上記の副教材は一年次に全員購入済み				

1. 学習内容

言葉として英語を使うには、(1)発音技術を磨いて (2)語彙(単語・フレーズ)を増やししながら (3)文の作り方や単語の使い方(文法・語法)の仕組みを身につける必要があります。この科目ではこのうちの(3)の部分について、豊富な例文と練習問題を通して学習します。

「英文法」というと難しいルールをたくさん暗記しなければいけないイメージかもしれませんが、その根本的な部分はかなりシンプルです。仕組みをしっかりと理解したうえで日々の練習を重ね、英語を正しく理解する力や英語で伝えたい内容を適切に表現する力をつけましょう。

2. アドバイス

(1) 「長文が読める」ようになるために文法を学ぶ

この授業では主に文法を扱いますが、大学入試の「文法問題が解ける」ようになることがゴールではありません。文法問題が解けるようになることはもちろん、長文を正しく読めるようになるためにも文法の知識は不可欠です。長文が苦手な人こそ、文法を真剣に学びましょう。

(2) 自分のレベルに合わせて自学自習をする

週 2 時間という単位数の授業なので、一週間内にこの授業だけでは学力の伸長は望めません。授業外での自学自習を毎日してください。授業で扱った文法事項についてよく理解できている人はより高いレベルの文法問題に挑戦しましょう。基礎からの復習が必要と感じた人はより易しいところから復習をしましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

・定期考査 ・平常点(授業態度・宿題・課題・実技試験など)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	基本英文法の体系的 理解と基礎演習	4	Intro 文の種類	各文法事項について仕組み と考え方を学び、代表的な 練習問題で基礎力の定着を 図ります。	(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		6	Intro 動詞と文型		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		8	Check 動詞の活用		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		10	L1 動詞と時制(1)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		12	L2 動詞と時制(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		14	L3 動詞と時制(3)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		16	L4 完了形(1)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		18	L5 完了形(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		20	Plus 完了形		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		21	まとめ 時制・完了形		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
1学期期末考査	基本英文法の体系的 理解と基礎演習	22	L6 助動詞(1)	各文法事項について仕組み と考え方を学び、代表的な 練習問題で基礎力の定着を 図ります。	(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		24	L7 助動詞(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		26	Plus 助動詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		27	まとめ 助動詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		28	L8 態(1)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		30	L9 態(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		32	Plus 態		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		33	まとめ 態		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		78	L24 否定		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		80	L25 接続詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
夏休み			●問題集(WINSTEP2 または同等のもの)による問題演習			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	基本英文法の体系的 理解と基礎演習	34	L10 不定詞(1)	各文法事項について仕組み と考え方を学び、代表的な練 習問題で基礎力の定着を図 ります。	(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		36	L11 不定詞(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		38	L12 不定詞(3)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		40	Plus 不定詞①		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		41	Plus 不定詞②		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		42	L13 動名詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		44	Plus 動名詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		45	Plus 動名詞と不定 詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		46	L14 分詞(1)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		48	L15 分詞(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		50	L16 分詞(3)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		52	Plus 分詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		53	まとめ 不定詞・動 名詞・分詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
2学期期末考査	基本英文法の体系的 理解と基礎演習	56	Check 比較	各文法事項について仕組み と考え方を学び、代表的な練 習問題で基礎力の定着を図 ります。	(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		58	L17 比較(1)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		60	L18 比較(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		62	Plus 比較		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		63	まとめ 比較		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		64	L19 関係詞(1)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		66	L20 関係詞(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		68	L21 関係詞(3)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		70	Plus 関係詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		71	まとめ 関係詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		72	L22 仮定法(1)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		74	L23 仮定法(2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		76	Plus 仮定法		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
77	まとめ 仮定法	(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐			
冬休み			●問題集(WINSTEP3 または同等のもの)による問題演習			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	基本英文法の体系的理解と基礎演習／実践演習	82	疑問詞と疑問文	各文法事項について仕組みと考え方を学び、代表的な練習問題で基礎力の定着を図ります。	(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		83	時制の一致と話法 (1)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		84	時制の一致と話法 (2)		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		85	いろいろな構文		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		86	代名詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
		87	前置詞		(1) 理解 (2) 正解 (3) 定着	☐
			テキストが終わり次第、適宜実践演習問題を扱います。			
春休み						

2021 年度 文教大学附属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 1～3 組 文系スタンダード	教科	外国語	科目	英語演習 I B(選択)
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	「意味のまとまり」をつかみ、正確に英文を読む力を養います。また、相手の伝えたい情報や意見を正確に聞き取り、英語で自らの意見や考えをまとめ、相手と伝え合うことのできるコミュニケーションスキルを養成します。				
教材	『Concerto No. 1』(いいずな書店) 『Listening Platform 2』(いいずな書店)				
副教材等					

1. 学習内容

(Reading)

様々な分野の興味深い英文(入試問題)を読みますが、以下の3つのことを意識しながら、英文を読み進めていきましょう。

- ① 英語の文中の「意味のカタマリ」を意識する ② 段落毎の内容をつかむ
- ③ 文章全体の大意把握をする

繰り返し演習することで、読解力を身につけましょう。

また、マスターノートを利用して、文章全体の大意を把握するだけでなく、英文に出た「単語・熟語」を身につけましょう。繰り返し音読することが、定着への近道です。

(Listening / Writing)

リスニング教材を用います。授業内で実施するリスニングテストに集中し、音声の質・スピードに慣れる努力をしましょう。また、ディクテーションも行います。

(Writing)

パラグラフライティングの基本を学び、英語の文章の型に沿って自分の意見を書けるようになることを目指します。

2. アドバイス

授業に積極的に参加し、音読や筆写の復習を徹底しましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点(授業態度・宿題・課題・実技試験など)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	読解	4 - 5 6 - 7 8 - 9 10 - 11 12 - 13	【Concerto】 英文読解の基本 Intro 1 Intro 2 Intro 3 Section 1	英文の構成・展開 経済 社会 動物・自然 心理・科学	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	聴解	7 - 8 9 - 10 11 - 12 13 - 14	【Listening Platform】 Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4	重要情報の把握 会話の流れの把握 位置の把握 描写の把握	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
1学期期末考査	読解	14 - 15 16 - 17 18 - 19 20 - 21	【Concerto】 Section 2 Section 3 Section 4 Section 5	心理 社会 社会 社会	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	聴解	15 - 16 17 - 18 19 - 20 21 - 22	【Listening Platform】 Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8	言い換えの把握① 話の概要の理解 数字・金額の聞き取り 応答表現の使用	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	ライティン			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
夏休み			●授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	読解	22 - 23 24 - 25 26 - 27 28 - 29	【Concerto】 Section 6 Section 7 Section 8 Section 9	自然 自然・科学・社会 社会 自然・動物	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	聴解	23 - 24 25 - 26 27 - 28 29 - 30	【Listening Platform】 Lesson 9 Lesson 10 Lesson 11 Lesson 12	要旨の把握 道順の把握 推測① 音声と視覚情報の統合①	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
2学期期末考査	読解	30 - 31 32 - 33 34 - 35 36 - 37	【Concerto】 Section 10 Section 11 Section 12 Section 13	自然・人間・健康 社会・差別 社会 社会・人間関係	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	聴解	31 - 32 33 - 34 35 - 36 37 - 38	【Listening Platform】 Lesson 13 Lesson 14 Lesson 15 Lesson 16	ノートを取る① 言い換えの把握② 情報の取捨選択 話者の立場・主張の把握	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
冬休み			●授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考查	読解	38 - 39 40 - 41 42 - 43	【Concerto】 Section 14 Section 15-1 Section 15-2	社会・医療 小説① 小説②	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	聴解	39 - 40 41 - 42 43 - 44 45 - 46	【Listening Platform】 Lesson 17 Lesson 18 Lesson 19 Lesson 20	指示に従う 推測② 音声と視覚情報の統合② ノートを取る②	(1)演習 (2)理解 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
春休み			●授業時に指示する。			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	2 年 4 組 文系ハイレベル	教科	外国語	科目	英語演習 I B(選択)
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	「意味のまとまり」をつかみ、正確に英文を読む力を養います。また、相手の伝えたい情報や意見を正確に聞き取り、英語で自らの意見や考えをまとめ、相手と伝え合うことのできるコミュニケーションスキルを養成します。				
教材	『Concerto No.2 』(いいずな書店) 『Listening Coach Warm-up Stage』(いいずな書店)				
副教材等					

1. 学習内容

(Reading)

様々な分野の興味深い英文(入試問題)を読みますが、以下の3つのことを意識しながら、英文を読み進めていきましょう。

- ① 英語の文中の「意味のカタマリ」を意識する ② 段落毎の内容をつかむ
- ③ 文章全体の大意把握をする

繰り返し演習することで、読解の力を身につけましょう。

また、マスターノートを利用して、文章全体の大意を把握するだけでなく、英文に出た「単語・熟語」を身につけましょう。繰り返し音読することが、定着への近道です。

(Listening / Writing)

リスニング教材を用います。授業内で実施するリスニングテストに集中し、音声の質・スピードに慣れる努力をしましょう。また、ディクテーションも行います。

(Writing)

パラグラフライティングの基本を学び、英語の文章の型に沿って、自分の意見を書けるようになることを目指します。

2. アドバイス

授業に積極的に参加し、音読筆写他の復習を徹底しましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

・定期考査 ・平常点(授業態度・宿題・課題・実技試験など)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	読解	4-5 6-7 8-9 10-11 12-13	【Concerto】 英文読解の基本 Section 1 Section 2 Section 3 Section 4	英文の構成・展開 心理・文化 医学 医療 心理・人間関係	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	聴解	5-6 7-8 9-10 11-12	【Listening Coach】 Unit 1 Unit 2 Unit 3 Unit 4	短い発話の情報把握 文法・構文を正しく把握 形状や色・柄の把握 人の外見を把握	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
1学期期末考査	読解	14-15 16-17 18-19 20-21	【Concerto】 Section 5 Section 6 Section 7 Section 8	生物 歴史・文化 言語・歴史 教育・IT	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	聴解	13-14 15-16 17-18 19-20	【Listening Coach】 Unit 5 Unit 6 Unit 7 Unit 8	数の聞き取り 位置関係の把握 道案内を理解 天気予報を理解	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
夏休み			●授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	読解	22 - 23 24 - 25 26 - 27 28 - 29	【Concerto】 Section 9 Section 10 Section 11 Section 12	文化・IT 工学・社会問題 教育 農林水産	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	聴解	21 - 22 23 - 24 25 - 26 27 - 28	【Listening Coach】 Unit 9 Unit 10 Unit 11 Unit 12	会話の流れを予想① メモを取りながらの理解 会話の流れを予想② 別の表現・言い換え表現	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
2学期期末考査	読解	30 - 31 32 - 33 34 - 35 36 - 37	【Concerto】 Section 13 Section 14 Section 15 Extra 1	経済・生活 社会・教育 芸術・心理 伝説	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	聴解	29 - 30 31 - 32 33 - 34 35 - 36	【Listening Coach】 Unit 13 Unit 14 Unit 15 Unit 16	情報の同時処理 時間の聞き取りと計算 簡単な計算 表の完成	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
冬休み			●授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	読解	38 - 39 40 - 41 42 - 43	【Concerto】 Extra 2 Extra 3-1 Extra 3-2	文化・地理 生活 生活	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	聴解	37 - 38 39 - 40 41 - 42 43 - 44	【Listening Coach】 Unit 17 Unit 18 Unit 19 Unit 20	条件に合う・合わないの判断 講義内容の把握① 講義内容の把握② グラフを見ながらの理解	(1)理解 (2)演習 (3)定着	☐
	ライティング			パラグラフライティング	英語の文章の型に沿って、意見を書くことができる。	☐
春休み			●授業時に指示する。			